

第6次小田原市総合計画行政案に対する市民意見の結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	第6次小田原市総合計画行政案
政策等の案の公表の日	令和3年(2021年)8月13日(金)
意見提出期間	令和3年(2021年)8月13日(金)から 令和3年(2021年)9月13日(月)まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布(市内公共施設、ホームページ、 広報紙)

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数(意見提出者数)	232件 (61人)
インターネット	51人
ファクシミリ	7人
郵送	1人
直接持参	2人
無効な意見提出	0人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

<総括表>

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	11
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	51
C	今後の検討のために参考とするもの	109
D	その他(質問等)	61

<具体的な内容>

(1)計画全体に係る内容(19件)

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
1	総合計画の策定は義務ではなくなりましたが、小田原市であえて策定する理由を教えてください。	D	地方自治法の改正により、基本構想の策定義務は撤廃されていますが、社会が大きな転換期を迎える中でも、長期的な社会変化を見据え、未来に向けたまちづくりを進めるとともに、市政運営全般の2030年の姿とその実現に向けた取組を総合的にまとめる総合計画の策定が必要と考えています。
2	現在の実施計画では、選挙により総合計画の方向性と逆方向の首長が当選したとしても、前の首長の方向性で作られた総合計画に縛られてしまう恐れがあり、それは選挙の結果という直近の民意の反映を阻害することになるため、総合計画の目標年次については総合計画の策定は義務ではなくなったことも考え、首長選挙のある年を最終年とする4年サイクルで回すべき。	D	首長任期の4年にあわせて、総合計画の策定や見直しを4年サイクルで設定している自治体があることは承知していますが、本市では、時代の変化に的確かつ柔軟に対応していくため、3年3期の計画サイクルとしています。
3	小田原市意見公募手続条例では、市政全般における基本的政策を定める計画及び個別行政分野における基本的な事項を定める計画については、意見公募手続を行うこととなっていますが、令和2年度末に制定され、第6次総合計画に引き継がれる2030ロードマップについては意見公募手続がされていません。2030ロードマップの策定に際し意見公募手続を行わなかった理由を教えてください。	D	2030ロードマップは、第6次総合計画に引き継ぐものとして作成しており、その内容を含む総合計画行政案として今回の意見公募手続を実施しています。
4	小田原市意見公募手続条例では、市政全般における基本的政策を定める計画及び個別行政分野における基本的な事項を定める計画については、意見公募手続を行うこととなっていますが、令和2年3月に制定された第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略については意見公募手続がされていません。第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に際し意見公募手続を行わなかった理由を教えてください。	D	第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市総合計画に掲げる取組や事業を、国の方針も考慮して再構成した事業レベルの計画であるため、意見公募手続を実施していません。
5	平成11年(1999年)、2015年、平成28年など、和暦と西暦が入り混じっている。グラフ等含めて計画内の表示を統一したほうがよいのでは。	A	見やすい、分かりやすい観点から修正を行いました。
6	箇所、か所の表記ゆれがあります。	A	表記を統一しました。
7	市が提供する各サービス/施策について、想定されるターゲットクラスターに対して、利用者や浸透度(ターゲットの、何%が知っているか)、と言う観点から見える化する事で、効率性が見えて来るので、新しいサービスや施策を評価する事も検討して頂きたいです。	C	市の事業や施策の評価については、新しい総合計画の策定とあわせて、その手法を検討していきます。
8	せっかく大規模な市民アンケートを取っているのでも、市の計画にあたってはサービスや施策を使用する側の要望をしっかりと受け止めて、課題を解決して頂きたいです。合わせて、中長期的な目線で、有識者やサービス提供側の考える良い施策を織り交ぜて、頂きたいです。	B	今回実施したアンケートの結果については、総合計画の策定や今後の市政運営を進めていく上で参考としていきます。また、今後も同様のアンケートを実施するほか、外部の方の意見も聞きながら施策を展開していきます。
9	人口動態、消滅可能性都市の議論を踏まえたコンパクトシティ的な観点の必要性についても検討し、それを広域連携地域内において導入する場合、必須である行政(生活)機能ごとの拠点の位置と数、機能ごとの効率性(集中)と安全保障(分散または複線化)の均衡点分析について、地理条件、人口条件、物理的及び時間距離とその前提となる移動手段と方法、通信インフラの有無など専門家による公開討議を希望したい。	C	人口減少・少子高齢化が進むなか、地域の活力を維持するとともに、持続的な都市経営を推進するため、小田原市立地適正化計画を策定し取組を進めていますが、周辺市町を含めた区域を対象とはしていません。
10	政策の成果は一朝一夕には出てこないもので、とにかくスピード感を持って対応をお願いしたい。	A	将来都市像の実現に向け、迅速かつ的確にまちづくりを進めていきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
11	<p>基本的な姿勢として、コンパクトシティを目指す方向性と、自治体をプラットフォームビルダーにしていく方向性が見られます。前者について。青森市が、アウガという再開発ビルをオープンしましたが、初年度から赤字で、巨額の資金が税金から投じられましたが、経営破綻して失敗に終わっています。また、中心市街地に人を集めることにより、農家の減少、食料自給率の低下、騒音問題、渋滞問題、近隣トラブルの増加などが懸念されます。後者について。これは公共サービスの提供を、共(地域の団体)、私(民間企業)に任せ、自治体はその管理者になるという考えです。総務省の自治体戦略2040構想研究会では、「社会保障は、基本は一人一人自助でやっていけるようなプラットフォームが確保されることで、公助はできるだけ頼らないで済む」と主張されています。現在、コロナ禍で、公共的なものを減らしていくことが、命を削ることにつながることを明らかにしてきました。保健所の削減、病院・病床の削減政策が、守れるべき命を奪っています。自治体は、今までのようにサービス・プロバイダーであり続けさせる必要があります。従って、この2つの方向性に対して反対です。</p>	C	<p>本市の立地適正化計画では、中心市街地や生活圏を支える各拠点が公共交通によって結ばれ、将来にわたって誰もが暮らしやすく、都市の活力が持続的に確保される多極ネットワーク型のコンパクトシティの形成を目指しています。プラットフォームビルダーの考えは、自治体が単にサービス提供主体となるのではなく、公・共・私のベストミックスにより課題解決に取り組む、そのプラットフォーム形成を進めていくことが重要であり、本市では、市民の力・地域の力を生かした取組を土台として、さらに幅広く公民連携の取組を推進していくこととしています。</p>
12	<p>私は西宮市から8年前に終活目的で小田原市に移住してきた85歳の老人です。当地は自然環境に恵まれた住みよい土地だと思います。しかし、コロナ禍の発生、異常な気象現象、デジタル化、環境問題、SDGsなど社会情勢はグローバルに大転換の真只中にあります。</p> <p>この時期に市が2030年を見据えて市の目指すべき方向を求めて総合計画を策定するのは時宜を得たものと考えます。パブリックコメントのみならず、行政全般において常に市民の意見に耳を傾け、行政内容を市民に丁寧に説明し、この計画が行政当局と市民との間で共有され、計画遂行に連携して取り組むものとなる事を期待します。</p>	B	<p>ご意見のとおり取り組んでいきます。</p>
13	<p>総合計画の前に市に直ぐ取り組んでもらいたい事があります。市の発行するすべての地図の方角を「北を上にする」事です。</p> <p>私は8年前小田原へ来て駅の観光案内所で市街地図を貰い、市役所への行き方を尋ねました。「駅の東口からでも、西口からでもバスが出ていますから、市役所前バス停で降りて下さい」と言われて、貰った地図を見ると南口、北口なら分かるが、どちらが東口か分からない、「北が右斜め上」を向いた地図で、当惑しました。この不都合さは、小田原土着の人には分からないようですが、外来者、観光客には極めて不親切なものです。</p> <p>最近は誰でもスマホでMAP検索をしますが、市の観光地図と方角が一致しないのでお城の周辺で迷っている人を見かけます。</p> <p>先日、市が発行された高潮浸水想定区域図、小田原三の丸ホールパンフレットの近隣施設ご紹介MAPは北が上になっていますが、今年度「おだわら市民ガイド」99ページの「施設マップ」は従来通りの方角です。来年度からは改めて下さい。</p>	D	<p>地図については、それぞれの用途に応じて盛り込む内容や見やすさを考慮し、製作・掲載しており、北を上にならない場合は、必ず方位記号を入れていきます。ご意見は今後の検討の参考としたいと考えています。</p>
14	<p>総合計画は、「SDGs未来都市計画」との整合性は取れているのでしょうか？ 今回の施策との紐付けを明確にしておくべきではないのでしょうか？</p>	C	<p>現行の小田原市SDGs未来都市計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略は、総合計画との整合を図ったものになっており、第6次総合計画においてもその整合を図っていきます。</p>
15	<p>第5次で作成した「地域別計画」の位置づけはどうなるのでしょうか？</p>	D	<p>第6次総合計画においても、地域別計画の役割が変わるものではなく、福祉、防災、環境などの領域における地域の主体的な課題解決の取組を促進するとともに、総合計画と一対となり、本市のまちづくりを進めるための計画として位置付けています。</p>
16	<p>第6次総合計画においても地域が自分事として計画を進めるために地域別計画が必要だと思いますが、どのような計画になっているのでしょうか？</p>	D	<p>総合計画策定の翌年度以降に必要なに応じて地域ごと実情にあわせて地域別計画を改定していく予定です。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
17	KGIは行政と市民の共通の目標になるので、設定根拠を明確にし、達成度合いが数値で測れるものにすべきです。	C	重点施策及び実行計画の目標値について、定量的な指標の設定に努めましたが、ご指摘のとおり、一部定性的な指標を設定しています。指標の設定については、総合計画審議会での議論を踏まえて検討しました。
18	基本構想がある程度固まった時点で、再度、施策・詳細施策についてのパブリックコメントを求めることを検討してください。	D	第6次総合計画行政案に係るパブリックコメントで提出された意見は、総合計画審議会に示し、議論を進めるとともに、基本構想は12月定例会で議案に提案したため、改めて実施は致しません。
19	残念ながらこの約10年間、小田原は人口も産業も自然も減りました。この総合政策を見るとまだまだ足りないところがあると思いますが、2030年は明るい小田原が期待できます。ぜひ「世界が憧れるまち“小田原”」を目指していただきたいです。	B	「豊かな環境の継承」を土台に、「生活の質の向上」と「地域経済の好循環」の両輪を持続的に回しながら「世界が憧れるまち“小田原”」を実現していきます。

(2) 序論に係る内容（11件）

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
1	策定基本計画に9年、実行に3年3期のうち、9年は長い気がする。計画を立てながら、優先順位を見極め、基本計画をブラッシュアップするところと、医療、街づくり、安全について喫緊の課題を早急に計画するように分けた方が良いのでは？	D	9年後の2030年に目指す姿を示した上で、3年3期で実行計画の見直しを図る計画とするとともに、毎年度、施策展開の共有や方向性を見直しを図ることとしており、喫緊の課題にも的確かつ柔軟に対応していきます。
2	集中化という都市の歴史は、人間という生物の許容範囲を超えてしまったとはどういう意味ですか？	D	都市の歴史は、狩猟採集から農業に移り、さらに町が生まれてくる集中化の流れを経て、現代の大都市の高層化のように、人間という生物の許容範囲を越えた環境をつくってきってしまったという解釈をしています。
3	教育、病院、住居などのインフラの住居とは、社会的インフラとしての公的な住宅の事を言っているのですか？	D	公的な住宅に限りません。暮らしの基本となる住居、教育、病院を意図しています。
4	ストリートの定義を教えてください。	D	ストリートは、単なる道ではなく、情報共有や、人と人が出会う場所を意図しています。
5	とにかくワクチンを急ぎましょう！ミナカ、ハルネ等、駅近で接種できる様なインフルエンザの様に打てる体制づくりを	B	小田原駅前のクリニックでモデルナ社製のワクチンでの接種を開始したほか、10月から集団接種での接種回数を増やしたり、接種回数の多い会場にワクチンを優先的に供給をするなど体制の強化を行いました。
6	色々な所に”スピーディー”という言葉が出てくるが、今回のワクチン接種に関しても、集団接種を始めるのが他市に比べて非常に遅く（鎌倉市より1か月も後）、何故か医師会の接種が優先されていたおかげで6月24日に県から発表された接種率は、鎌倉市31.16%・小田原市2.80%と1桁も違うものだった。発表された2日後に市立病院での集団接種を始めた。市民は見ています。どんなに言葉でスピーディーと言っても、市長は市民の命より、医師会の利益を優先したんだなど。言葉ではなく行動で示さないと不信感が冗長されます。	B	本市ではクラスター対策のため、高齢者施設の入所者等を優先して接種を始めました。高齢者や基礎疾患のある方は、多くががかりつけ医を持っており、個別接種を主体に実施しています。ご指摘の6月24日は本市の個別接種での2回目の接種が始まっていない時期であり大変低い数字となっていました。同じ資料の1回目の接種率は鎌倉市52.59%、小田原市37.18%と接種を進めていました。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
7	P.6にも書いてあるように小田原市の素晴らしいところは、他市に先駆けて、未来を見据え、色々な場面で真にSDGsの取り組みを行ってきたことにある。	A	持続可能な地域社会の実現に向けた本市の取組は、SDGsの理念を体現するものであり、第6次総合計画においても、この考えは継続して位置付け、取組を展開していきます。
8	(P9の図面について)幹線(鉄道)の矢印が鴨宮駅周辺の円から東京方面に2つ引かれています。1つは国府津に行く東海道線。もう一つは新幹線ですか?であるならば、鴨宮駅周辺の駅と交わらない方が良いと思います。	C	ご指摘のとおり、東海道線と東海道新幹線をイメージしています。小田原駅周辺からの動線を見やすくするため、1つの矢印としたことから生じた問題と認識しております。立地適正化計画において、誰にもわかりやすいイメージ図となるよう検討していきます。
9	計画の行政案の中で、市民アンケートを実施して、その結果をまとめていらっしゃいます。今回の計画案はその内容を捉えて、実践しようとされていますでしょうか。	A	今回実施したアンケートの結果については、総合計画の策定や今後の市政運営を進めていく上で参考としていきます。また、今後も同様のアンケートを実施するほか、外部の方の意見も聞きながら施策を展開していきます。
10	アンケートについて、医療に対する「何が充実すれば小田原市の医療に安心できるか」のアンケート結果も、トップ7はどれもクリティカルに重要な項目のように見受けられます。また、新病院の建設だけでは解決できない課題が多いのではないのでしょうか。サービス提供側の意見だけではなく、利用者の視点から、医療充実のために、ハコモノの建設に終わらず、ソフト面の強化もぜひ議論する事を検討して頂きたいです。	B	市民が24時間365日安心して医療が受けられる体制を目指して、救急医療体制の確保や、医療機関の連携の推進に取り組んでおり、今後も市民の生活に寄り添う医療を提供できるよう、関係機関と連携していきます。また市立病院では、日頃から利用者の声を病院運営に役立てているほか、医療関係者や学識経験者、利用者で構成する市立病院運営審議会でご意見をいただきながら、県西地域の基幹病院として必要とされる医療の提供に努めていきます。
11	市民アンケート調査について、今回の市民アンケート調査は、第5次総合計画と比較して、期間も短く回収件数も少ない。また回答者の属性(年代別、性別など)も公表されていないため、市民意識を正しく分析把握できているのか疑問です。 例えば、行政のデジタル化の現状で30歳代と80歳代の不満の内容が全く異なるのではないのでしょうか? 第5次総合計画時と同等の市民アンケートを行ない、比較分析すべき、その上で基本構想が市民の意識にそったものになっているか確認した上で施策検討するべきだと思います。	B	アンケート結果について、総合計画行政案に示している内容は結果の一部分を抜粋しているものであり、アンケートすべての回答結果や回答結果をクロス分析した結果などを報告書としてまとめています。

(3) 基本構想に係る内容 (13件)

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
1	市民力や地域力とはどのようなものですか?	D	本市では、福祉、防災、環境等の領域で、日々の実践活動や地域の課題解決に取り組む市民や地域コミュニティ組織、市民活動団体等が数多く存在しており、その推進力を市民力、地域力と表現しています。
2	「世界が憧れるまち“小田原”」について、ぜひ多くの市民に対して、この言葉を聞くたびに、どのように感じるかを聞いてほしい。市長は選挙の時、ひとり10万円と書いた上に前市長が1か月前に出した政策を自分の政策のように公報に書きました。本当に政治家として恥ずかしい行為です。ですからこの言葉を聞くたびに市民は失笑してしまいます。もうこのフレーズはやめませんか。	C	日本の都市は、世界から見ても治安、環境衛生、医療等の面で優れており、とりわけ小田原には、こうした要素に加えて、歴史・文化・自然・交通インフラといった、他都市が羨むほど多くの地域資源が整っていることから、その魅力を十分に引き出すことにより「世界が憧れるまち“小田原”」を実現していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
3	「世界が憧れるまち“小田原”」という市の、市長のキャッチフレーズに、市民が呆れはてています。市民にとっては「私の町いい町だよ」と言える町であればいい。そんな町作り計画を作ってください。	C	多様化する価値観を的確に捉えながら、住んでいる方が、これからも暮らし続けたいと思う施策とともに、小田原に住みたいと思う方を増やすことができる施策を総合計画にまとめ上げていきます。
4	小田原市は第5次総合計画「おだわらTRYプラン」に基づき、「市民の力で未来を拓く希望のまち」を目指し、市民力や地域力を生かした課題解決への取組が行われ、その取組が評価され、SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業にも選定されたと思いますが、第6次総合計画においても、この市民力、地域力を強化し、課題解決への取組拡大を加速していくことを、基本構想のまちづくりの基盤強化として目標にかかげ、最重点施策として取り組むべきではないでしょうか？	B	第6次総合計画では、わが国でも特筆すべきレベルに成長した市民力や地域力を土台とし、持続可能なまちを実現していきます。また、重点施策では、福祉・防災の領域を中心に、市民の力・地域の力を生かした取組を位置付けています。
5	「基本構想 1まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿」の、1行目「森里川海がひとつならい・・・」という表記がわかりづらい。違う言い方や、「」・を使うとか、ひとつならいという文言を変えるなど市民にすんなり容易に入ってくる表現にしてほしい。	A	市民にとって分かりやすい表現に努めるとともに、分かりにくい語句には注釈等を追記していきます。
6	誰もが豊かな生活を送りたいと思うし、誰もが安心して生活したいと思っています。 病気になったら安心して治療が受けられる体制、質の高い教育を受け社会を豊かにしていく人材の育成などは、誰もが必要と思いがながらも、コストがかかります。そのコストを市民として負担していこうとすると、残念ながらそのコストを負担しようとする市民層や負担できる所得層がいなければ、豊かな社会を築くことは出来ません。 本行政案の「(1)生活の質の向上」「(2)地域経済の好循環」「(3)豊かな環境の継承」は小田原市の10年後の目標として賛成できます。 人口増加と企業誘致は上記目的を達成するに有効な手段と考えます。 私は不動産・保育所やその他事業を経営しております。その中で満足なことは、豊かな自然と温暖な気候、都市的サービスも受けながらも東京ではない東京とは同じでない町を心地よく感じています。 人口増加を自然破壊と唱える方もいるかもしれませんが、放置された空き家、耕作されていない農地、整備されていない森林・河川管理や海岸・護岸整備など人口が減っていても自然破壊が進んでいます。これは人口問題と関係のない問題です。 それは人口が20万人になっても、豊かな自然を守る施策ができれば、今以上に豊かな自然を生み出すことができます。	B	医療、福祉、教育等の充実による「生活の質の向上」と、企業誘致や新しい働き方に対応した環境作り等による「地域経済の好循環」、そしてこれらの土台となる「豊かな環境の継承」という3つのまちづくりの目標に向けた取組により、小田原の魅力を高め、人を呼び込んでいきたいと考えています。
7	アンケートの「市民と行政がともにまちづくりを進めるうえで何が重要か」の結果に対して、「市の情報の公開、提供」とありますが、その対応はされておりますでしょうか。「市のホームページを見れば載っている」と考えてはおりませんか。ただ情報公開するだけでは不十分と捉え、情報を浸透させるための解決策を探って頂きたいです。市が頑張って準備されたサービスや支援はあるのに、それを必要としている方々に行き届いていない事も多々あると考えます。	B	今後も SNS や動画等、様々な広報手法を積極的に活用するとともに、これまで以上に庁内の担当課と連携を図ることで、より効果的な情報発信を行い、情報を必要とする市民に行き届くよう展開していきます。
8	役所内は縦割りの組織となっており、その中で真面目に仕事をすればするほど、よりその組織に染まっていき、自分のことしか見えないという悪循環に陥っているように見受けられる。しかしながら、多くの課題は組織横断的に解決する必要があり、柔軟な対応が求められることがほとんどである。	B	社会が複雑化する中、多くの課題への組織横断的かつ柔軟な対応が求められている認識を持ち、総合的な対応が必要なものについては、重点施策にも位置付けながら取組を進めていきます。また、市民や関係機関との対話の場を積極的に設ける等、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
9	公民連携という言葉がやっと役所側から出てくるようになったが、一時、官民の癒着による不正が横行した以降、官と民との距離は遠くなっており、今の行政内には、そのネットワークもなく、どうやって官側から民へアプローチしたらよいか？わからないケースが多々あると思われる。まずは、各課題に対して官と民との対話の場を積極的に設ける必要があると考える。	B	これまで以上に魅力的で持続可能なまちづくりの実現を目指すためには、民間事業者との連携を飛躍的に強化・推進する必要があると考え、小田原市で取り組むすべての事業を対象に民間事業者からの提案募集を開始しました。今年度は試行として、提案者の参加資格を市内に事業所を有する法人若しくは個人事業主又は法人等のグループとしています。
10	総合計画を活きたものにするために、官と民が常に気軽に対話できる体制づくりを望む。	B	小田原市民間提案制度を活用し、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。
11	まちづくりの推進エンジンに「(2)公民連携・若者女性活躍」があるのは素晴らしい。しかし、この計画案全体に女性活躍に力を入れているという感触が伺えない。総合計画なのでこういう記載になるのかもしれないが少し残念である。	C	市役所が一丸となり、若者や女性が活躍できるまちづくりに向けて、取り組んでいきます。
12	デジタル化の推進については、時代の流れからも進める必要はありますが、大事なのは住民の合意と個人情報保護です。そのため、大胆に進めるのではなく、まずは市役所の業務に関する事で、できることから始めるべきだと思います。市の行う説明会への参加が電話予約のみということがありました。メールで申し込むことも可とする、そんなことから始めるべきです。そして、スーパーシティの再提案には、応じないようにすべきです。「岩盤規制の大胆な緩和」を求められているので、住民の合意を得たうえで提出し直す時間ありませんから。	C	小田原が有するポテンシャルにデジタル技術と規制改革を組み合わせることで地域課題を解決し、持続可能な小田原の実現を目指しています。よって、スーパーシティ構想の採択に向け、引き続き取り組んでいきます。
13	デジタルまちづくりについて、国の施策にいち早く乗って小田原市をアピールしたいようですが実力が伴っていません。じっくり職員の能力を育てる基本的なプランでじっくり進めて下さい。	C	「デジタル技術を最大限に活用し、持続可能で活力のあるまちづくりを推進することで、豊かな未来社会を実現する」という理念のもと、デジタル化によるまちづくりに取り組んでいきます。

(4) 実行計画に係る内容（189件）

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
1	実行計画について、冒頭のまちづくりの目標と施策の表は、「表のタイトル」「網掛けの説明」もなく、何を示そうとしているのか不明です。施策の中でどれが重点施策（医療・福祉、防災・減災、教育・子育て、地域経済、歴史・文化、環境・エネルギー、まちづくり）なのか理解しやすいようにしてほしい。	A	総合計画が分かりやすいものになるよう記載を修正しました。
2	重点施策について、2030年の目標の数値目標は、小田原市の現状やベンチマークとする他市等との比較がないため、目標として設定する値が適正なのか誰も判断できない。また、定性的な目標も何らかの数値目標（指標）は設定すべき。（例えば、アンケート結果）	A	市の目指す方向性が分かりやすくなるよう、「2030年の目標」を含めた重点施策の記載内容を修正しました。また定性的な目標について、その進捗を図るための指標を設定しました。
3	現時点の二次救急医療の圏域内自己完結率を教えてください。	D	令和3年9月1日時点で、二次救急医療の圏域内自己完結率は90%となっています。
4	現時点の包括支援センターの圏域ごとの地域福祉相談支援員の配置率を教えてください。	D	本市では地域包括支援センターを、日常生活圏域ごとに計12箇所設置しており、地域福祉相談支援員は、令和3年9月時点で2名を配置しています。今後増員を予定しています。
5	現時点の小田原市の男性と女性の健康寿命を教えてください。	D	本市として公表している直近の健康寿命は、平成27年時点で、男性78.57歳、女性83.72歳です。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
6	災害時に適切な情報が多様な手段により全ての人に届いていることの確認はどのように行うのですか？	D	多様な情報伝達手段のあり方について情報弱者を含めた全体的な検討を行い、次段階では市民へのリサーチを行いつつ整備を進める予定です。
7	逃げ遅れゼロの実現の確認はどのように行うのですか？	D	計画策定から2030年までにおける死者数ゼロを目指し、周知啓発を行います。
8	近年話題となる富士山噴火による災害対策においても各市町村や公、民の道路管理事務所のみならずJR東日本、JR東海 小田急、西武を交えた人員、物資の移動状況の確認や災害時の代替策など話し合いの機会を常に持つべきと思う。	B	富士山火山対策については、公共交通機関を含め、国や県等と連携して検討を行う予定です。
9	防災については、昨今の自然災害の増加を踏まえ、災害対応に携わる関係者が改めて現状に対する共通認識を持ち、日常から顔が見える中で備えていく必要があると考える。また、防災に関しても市内部の組織内あるいは市と県、国との関係部局の連携等非常に問題が多く、実際に現場の最前線で災害対応にあたる市内業者にそのしわ寄せがくることが多い。	B	現在防災会議を通じて神奈川県、電気ガスなど各種インフラ事業者、公共交通機関事業者等関係者等と災害時における連携を図っておりますが、引き続き災害の激甚化などのトレンドを適切にとらえ、対応がスムーズに進むよう関係機関とも連携について検討を重ねてまいります。
10	予測不能な時代(VUCA)において、自分で考え抜く力・やりきる力が増々重要となると考えます。二宮尊徳翁のような人財を創出するためには、偉人の考え方を踏襲しながら新たな視点で考える教育も推進頂きたい。	B	郷土の偉人である二宮尊徳翁の業績から、その思想や考え方を学ぶことは、小田原の子どもたちにとって大切なことですので、郷土学習等の中で引き続き取り組んでいきます。
11	「新しい学校づくりの推進」とあり、厚生文教常任委員会に出された資料によると「本市における学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方を整理し」とあります。また、小田原市学校施設中長期整備計画には、「学校施設の将来的な再編も含め、学校施設の最適化を検討していきます」とあります。つまり、統廃合を視野に入れるということです。学級の数人が欧米と比べても、かなり多いのが現状で、教職員の長時間労働は改善されていません。そんな中で、統廃合という選択肢ありきで進めてはいけないと思います。	B	「新しい学校づくり推進事業」は、適正規模も含めた望ましい教育環境を検討していくものですが、統廃合ありきでの議論ではなく、本市の教育の在り方を踏まえ、子どもたちがより良い学校生活を送るための教育環境はどうあるべきか、という視点からの議論としていきたいと考えています。
12	市報8月号の市長と有識者との対談で、小宮山氏が「2050年を考えると、最大の産業は教育だ」と指摘され、「公民連携の実質的なモデルを小田原で」と言われています。今、日本は長引くデフレ状態で中間層の所得が落ち込み、一部の富裕層との分断が顕著になり、子供の教育に費用が掛かるので出産を控える傾向が見られると言われていいます。行政案でも教育について「子育てに夢や希望が持てるまち」を目指し、人口の社会増にもつなげる姿勢は見られます。私は小田原に来て、駅周辺に塾が多い事に驚きました。そしてその塾が市外の有名校に合格した生徒数を掲示して競っているのを見て更に驚きました。これは小田原市内の中学、高校を軽視する風潮の現れだと思います。小田原市が子育て、子供の教育に力を入れている、ここで教育を受けさせるのが子供の為になると若い親たちに感じさせる具体策が必要です。公私幼保施設の充実は勿論の事、市立小中学校での教育費負担の一律無料化(給食費、修学旅行費用を含む)、を打ち出して欲しいと思います。	D	ご提案の市立小中学校での教育費の一律無料化ですが、給食費や修学旅行費用については受益者負担の基本的な考え方や利用の有無による公平性の観点から、全額公費負担はなじまないものと考えています。
13	教育について、なんでもかんでも国の方針に従っていく姿勢がみえます。教科書(中学校歴史)の再選定はほとんどの自治体が「昨年決定した教科書でやる」と決めました。市民は再決定の意味を知らないし、再購入になるとしたらムダ遣いです。幸い現教育委員さんがきちんと考えて昨年通りとなりましたが。	D	義務教育において、学習指導要領に基づき教科書で学ぶことは全国共通で実施されていますが、本市はそれらを学ぶための歴史、文化、自然、産業等の資源に恵まれており、教育の強みと考えています。これらを有効に活用するとともに、本市の学校教育振興基本計画を踏まえ、「未来を創るたくましい子ども」の育成を目指していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
14	コロナ禍の今、学校に配ったタブレットで、いつでも自宅などでオンライン授業ができる体制・環境を一刻も早く実現すべきではないでしょうか？	B	新型コロナウイルス感染症拡大の状況の下、登校に不安を感じたり、感染者との濃厚接触により登校を控える児童生徒のため、オンライン授業実施のための通信環境の提供のほか、臨時休校等に備えた対応を行っています。
15	質の高い学校教育の『質』とは何かわからない。	D	子どもたちが将来の夢を持ち、社会を創る力を身に付けて成長するための教育内容を充実させることが教育の質の向上につながると考えており、ステップアップ調査の活用、ICT教育の推進、魅力ある施設整備等の取組を進めていきます。
16	小田原の子ども達は、学力面よりもむしろ体力面で平均値以下と伺っている。教育の質の中に子ども達の体力向上もふくまれているのか？	D	個別の取組として、体力・運動能力向上事業を実施してまいります。なお、令和元年度の本市の中学生は、全国平均を上回っています。
17	現時点の保護者の子育て環境や支援への満足度はどれくらいですか？	D	「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査（平成30年度）」で、子育て環境や支援の満足度を1～5の5段階で未就学児の親に伺ったところ、中間の3以上の評価をする人が66.5%となっています。
18	小田原市内に産婦人科が少ないため、安心して産むことができる環境の構築を検討頂きたい。また、子どもを望みながらも妊娠できない夫婦への不妊治療支援を国に先立ち導入するなど、あわせて検討頂きたい。	C	平成29年度に子育て世代包括支援センターを設置し、令和3年7月にはセンターの分室を開設し、妊娠期から子育て期にかけての切れ目のない支援体制の構築に努めてきました。今後もセンターの機能強化を図るなど、いただいたご意見も含め検討していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
19	<p>保育所を運営して日頃感じることは、保育が本当に必要な人に保育の提供ができない制度です。保育所に子どもを預けるには、原則仕事をしていないと預けることはできません。しかし、出産後の女性が産休・育休制度以外で仕事から離れると、復職しようにも保育所に預けれなく、仕事につきにくい状況です。保育所に入れるために無理して産休・育休の制度を使っているケースがあります。</p> <p>点数の問題で就職予定者は点数が低いですし、労働時間が長い方のほうが、短い方より点数が高いです。しかし、これが現実合っているかという点、相当乖離しています。</p> <p>出産した後、子どもといる時間を求め短時間労働(非正規も含め)を選びたい方も多いです。終身雇用制度から変わりつつある労働市場・環境で、保育所入所の基準は時代に適合していません。</p> <p>今の制度では、就職してからから保育園探しは始まり、保育園が決まるという流れですが、保育園が決まってから仕事を見つけないと、多くの人は求めていると思います。就職より前に、保育所を決める制度化です。</p> <p>また、小田原に移住者を増やすにも、保育所を見つけてから移住を決めるケースは十分に考えられます。雇用の面でも新たな人材の確保が期待できます。安心して小田原で子どもを出産し、安心して育てられる環境ができます。さらに働く機会があれば仕事生まれ、税収が増えます。</p> <p>市内には当社(企業主導型保育所)のように小田原市の認可保育所とは別に、国の基準で設置された保育所もあります。新しい保育所整備をしなくても、柔軟な運用と連携で待機児童問題に限らず、移住者増加・企業誘致(優先的に入所できる制度)にも効果が期待できます。</p> <p>国の制度で点数化して入所者を決定していると見受けられますが、豊かで安心して子育てのできる小田原市独自の制度を設けるべきと考えます。</p>	D	<p>保育所の入所判定に係る市独自の制度を設ける予定はありませんが、保護者のライフスタイルが多様化する中、公平な判定ができるよう、毎年、指数を見直しています。</p>
20	<p>職場内保育の整備支援を独自に行うなどの検討を頂きたい。</p>	C	<p>企業主導型保育所や事業所内保育所に対し、市が独自に補助金等の整備支援を行う予定はありませんが、設置に向けた事前相談の中で設置予定の地域の保育状況や地域の児童が入所できる枠等について話し合いを行い、企業だけでなく地域にとってもメリットがあるよう相談を行っています。</p>
21	<p>働く場所の定義を教えてください。</p>	D	<p>従来からの働く場として認知されている工場やオフィスのほか、小田原の恵まれた地域資源を生かした「サテライトオフィス」や「コワーキングスペース」などを含めて、「働く場」としています。</p>
22	<p>新規創業数はどのように調べるのですか？また、法人の設立に限られるのですか？</p>	D	<p>法に基づく「小田原市創業支援等事業計画」による支援を受けて、法人に限らず創業した事業所数をカウントします。</p>
23	<p>新たなビジネスの展開は「美食のまち」だけなのでしょうか？</p>	D	<p>「美食のまち」に限らず、小田原の恵まれた地域資源を生かして、「ソーシャルビジネス」や「スタートアップ」など従来になかった形でビジネスを展開することを含みます。</p>
24	<p>「市内産業の海外展開の支援」はどういった支援を想定しているのかわかりません。</p>	D	<p>「市内産業の海外展開の支援」では、海外に向けて販路を開拓・拡大しようとする事業者に対し、専門機関の斡旋等の支援により商談機会を創設することなどにより、世界に向けて小田原の商品を流通させることを目指します。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
25	エネルギー分野の促進の具体的アクションはありませんか？	B	民間事業者との連携により、再生可能エネルギーの導入促進に向けた取組を行っており、具体的アクションとしては「重点施策6 環境・エネルギー(1)再生可能エネルギーの導入促進」に基づき実施していきます。
26	<p>「・・・木造化等の天守の整備を含めた将来の小田原城天守や大手門のあり方に関する調査研究を進めます。」の記述は大変心強く思います。歴史を語るのに衣食住のを知ることは世界共通の興味・関心事です。その中で日本の木造建築は世界に誇れるものです。その木造建築を語るのに調査研究を抜きにはあり得ないことです。木造建築の最も大事な要素は構造であり、構造即意匠なのであって意匠が分かればそれでよいというような考えであってはなりません。今後、速に調査研究を進め、近い将来に天守や大手門が木造で復元することを期待しています。</p> <p>建築以外の調査として、その時代の背景、森林の状況、木材の供給、職人、それらを統括する人たちなど複合的な調査研究も視野に入れて欲しいと願います。</p> <p>伝統は未来を繋ぐ財産です。小田原市の輝かしい未来の姿を想像して嬉しく思います。</p>	B	外国人の技能実習は、滞在可能期間が最長3年となっていることから、直接、定住人口増につながるものと思われませんが、技能実習制度を通じて、人づくりへの国際貢献や関係人口の創出に寄与するものと考えています。子育てに係る給付等の支援の充実については、現行制度の状況をよく見ながら、国や県の施策の方向性等も踏まえ、支援が必要な人に届くように引き続き検討していきます。また、業務のロボット化(RPA)は令和元年度に導入を開始し、順次適用業務を拡大しているところです。
27	<p>「第6次小田原市総合計画 行政案」を拝読させていただきました。この中で歴史資産整備の一環として、小田原城址整備の具体的な検討課題として、この度「天守閣の木造化等」が挙げられていましたことに期待を感じております。観光地としてのエリアを考えた場合に、広範囲の熱海・湯河原・箱根地域の要として小田原の存在がありますが、常々その観光地資源の弱さを感じておりました。外国人を小田原城へご案内したおり、コンクリート造りであることが判り、彼らが大変落胆して「遠くから眺めていた方が良かった」と申ししていたことに、こちらもそれ以上の落胆と、恥ずかしさを感じた次第でした。戦禍の荒廃した街の瓦礫を集め、50年の歳月をかけて街の復興を成し遂げたドイツ人からすれば、RCでの再現はあまりにも安易な選択と受け止めた気持ちが身に染みて理解できたからです。以降、外国人をご案内する場合に、小田原城へはお連れしないで、遠くから見せるようになってしまいました。耐火基準や耐震の構造上の課題があつてのことだという事は理解していますが、木造でもそれをクリアできるということも近年知り、だとすれば、近い将来に本物の天守閣を是非構築していただきたいと、たいへん期待しております。わざわざでも行きたくなる本物の場所。テーマパークやバーチャルが席卷する時代にあって、これからは本物しか長く話題にならないだろうと、そう思うからです。どうか、よろしくご検討をなさってくださいませ。</p>	B	小田原漆器をはじめ、木製品全般の流通は脱プラスチックに効果的と考えています。木製品の持つ温かさや耐久性、職人の技術などのほか、環境への好影響の期待も含めて情報を発信していくことを検討します。
28	<p>小田原城はもちろん木造にした方が良いと思いますよ！今のままで、あと50年持てば良い方でしょうね。木造にすれば何百年と持つのです。維持管理も修理するまで殆どかからないから、良いんですよ！今のままだととにかくお金がかかります。鉄筋コンクリートでは、長い間持たないしとにかくメンテナンスにお金がかかるんです。</p> <p>小田原城を木造にして！城下町を再建して下さい。古き良き日本の伝統は、世界に誇る日本の文化です。もう一度取り戻しましょう。繋がりも大切にしながら！</p>	B	いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。
29	<p>近年大型木造化の流れが強くなり、国策においても公共建設の木造化が推進されてきています。</p> <p>日本は、世界でも類を見ない木造技術が発展して、住宅・社寺建築をはじめ、多くの文化遺産を生み出してきています。城のデザインそのものが日本の国土に適していて特徴は、基壇が高い・風通しが良い軒が深い等気候風土からもその形が木造に最もふさわしいところからきています。</p> <p>鉄筋コンクリート造では、あくまでも形を装った型枠にすぎません。文化財的にも価値はないです。是非、原状復旧を進めていただきたい切に思います。</p>	B	いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
30	<p>ここでは、天守木造に向けて準備検討組織を早期に立ち上げるべきと主張します。</p> <p>実現に向かっては、多くの課題を消化していくわけですが、たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 模型と引図など資料の徹底解析を行い、現代の安全基準を満たす構造設計 ・木材の調達とその加工体制 ・伝統木工法を体得している技術者の確保と育成 <p>のような直接建設に関する課題の他にも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在天守内にある展示物を移設するための歴史博物館の建設 ・数年に亘る工期おける天守不在をカバーする施策 ・建設予算とその調達段取り <p>など多くの様々な課題が並行的に走っていかねばならないわけで、全体構想を緻密に描き、進捗管理する組織が必要です。</p> <p>まずは、準備検討組織を市の内部に正式に立ち上げて、然るべき識者、市民を招集して、各課題を分科会に担当させていく体制を敷くべきです。</p>	C	<p>いただいたご意見を今後の調査研究を進める上で、参考とさせていただきます。</p>
31	<p>この度の「小田原市第 6 次総合計画行政案」を拝見しましたところ、施策のなかに「木造化等の天守整備を含めた将来の小田原城天守や大手門のあり方に関する調査研究」の文言を見つけ、たいへん嬉しく思っております。小田原城は言うまでもなく当市にとって重要な歴史・文化・観光資源であると同時に、城下町としての街のアイデンティティを形成する象徴的な存在でもあります。現行の天守閣も戦後という混乱する時代状況のなかで、多くの市民が希望を託した復興天守としてその役割を十分に果たしてくれたとは思いますが、一方で外形を模しただけのコンクリート造りという条件は「模造」というイメージを避けることはできません。木造の天守閣とて復元であることに違いはありませんが、ありし日の天守・大手門をより美しい姿で存在させようとする意思是、当市が掲げる計画が、禁止的な未来における一時の利益にのみ資するものでなく、遠い過去・未来を踏まえた大局的なヴィジョンに立ったものであることを如実に物語ります。この一点が、本計画のもっともオリジナリティに富む部分かと思えます、どうかその”思想”をぶらすことなく、実現に向けて着実に歩みを進めていただきますようお願い申し上げます。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>
32	<p>城下町小田原は江戸や大阪より以前に最大の城下町であったにもかかわらず、現在は市民ですらその面影を実感できません。当然ながら国道などの通過客も、その実感はなく、R1 や青橋から「あ、お城だ…、小さいな」と思うだけです。たとえ小田原北条が関東を支配していた事を知っていても、やはり印象は「小さいお城」と思うそうです。長年の工事により二の丸や銅門等が再現され、最近では天守閣こそ改装されたものの、その特徴である惣構の整備はあまりなされておられません。まずは、<国道 1 号と国道 255 号(早川口・板橋見附、箱根口、山王口・江戸見附)を優先に整備>し、「へえ～ここから、小田原城なんだ！」と実感できるような惣構えを中心とした街づくりと平行して、新交通網の整備を主とした総合政策を行えば、観光(教育、経済活性)・生活(利便向上・渋滞緩和)・防災なども兼ね備えた街づくりができると考えます。いくら魅力ある観光地が点在していても、回遊性が不便なら単なる経由地のままです。また、鎌倉のように許容量を超えた人が押し寄せれば、大渋滞が発生し生活も不便になり観光客どころか住民流出にもつながります。</p>	C	<p>点在している観光スポットへの誘導に向けて二次交通の拡充やパンフレット等を活用し惣構など魅力ある拠点のPRを行っており、いただいたご意見を参考とし、引き続き取組を実施していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
33	<p>神奈川以外の都道府県(以下、県表記)では、城郭があった都市がそのまま県都(県庁所在地)として機能していたり、城下町の市区町村民でなくとも、同県民なら県内のお城に愛着があるのが当然です。例えば本市も支援をした熊本城は、地震で損壊した際に市民だけでなく、熊本県民が自分の街の事として捉え、大変に悲しい思いをされた事は私達にも伝わるところであります。しかしながら、もし小田原城が被災した際に、熊本県のように神奈川県内の他市民、例えば横浜の人がショックを受けるでしょうか？おそらく答えはNOです。残念ながら、縁がある人や足柄圏内2市8町の住民、平塚や秦野あたりの近接都市の住民を除けば、「他県の出来事」のように感じる人がほとんどだと思います。もっと言えば、天守閣が残っていない場所(江戸、浜松、仙台など)のほうが、神奈川よりも地元の城下町に愛着があるのではないのでしょうか？現に私が学生時代の同級生に川崎市民がおりましたが、小田原を静岡県だと思ってました。この様な話しは枚挙に暇がありません。社会人となった今も、初めてお会いする横浜、相模原付近の方も、同県と認識はしているものの、似たような傾向があり、担当が西湘エリアになり初めて小田原に来た人もいました。一度だけ、機械修理を頼んだ際に、メーカーの担当がお城マニアで、作業中もソワソワして「リニューアル待ってたんです。他の予定入れなくて！この後行くんです…」という人もいましたが、このようなケースはごく稀です。これはひとえに、<相州=神奈川県を中心が小田原であった事を県民が実感できない>ためと考えます。神奈川、それどころか関東の中心地であったことを実感でき、小田原を市民だけでなく県民が誇りに思う事ができるようにするためにはどうしたら良いか？最も効果的なのは、「小田原を神奈川県の本庁所在地にすること」ですが、もはや不可能であり不毛な努力に終わります。そこで実行可能な解決策は何か？それは『小田原城総構えの整備』と言えます。これはARなどとは違い、製品・技術規格や端末所有の有無を問わず、恒久的に効果を発揮するもので、訪れた邦人外国人、老若男女が生身一つで体感できるものです。</p>	C	<p>いただいたご意見などを今後の史跡小田原城跡総構えの整備を進める上で、参考とさせていただきます。</p>
34	<p>有識者意見にある「小田原には歴史の深さがあるので、都市にとって一番の下絵になる歴史を現代とつなげてほしい。」の象徴として、小田原城の木造復原を具現化して戴きたい。 歴史の深さを視覚化するには、喪失建造物であればその時代の姿形のみならず、素材や工法も可能な限り本来通りに復原すべきであり、その上で最先端の復原技術を投入する事で、歴史と現代を繋げる高度な価値を創出出来ると考えます。 小田原城の木造復原は高度な価値の実現であり、その価値は歴史文化のみならず、新たな都市整備手段の見本としても、小田原を内外にアピールする礎になると確信します。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
35	<p>城下町や宿場町の町並みはその土地の自然と歴史との中で育まれて、創り上げたものであり、その土地の個性を示し、固有なものである。そして、その個性を保ち続けることで、人々の心のふるさととなる。どこの地域でも、「東京」となってしまったら、全く魅力のないものになるであろう。小田原は、古い伝統・歴史を基にして、新しい城下町・宿場町のまちづくりが行われるべきである。そして、その町に核となる建物が、歴史の文脈の中で復元されたら、もっとその町に求心力が増し、観光資源として存在が増し、町に経済的活力が生じ、生活は向上していくこととなる。小田原の中心的な核は、小田原城であり、天守であると思う。現在は鉄筋コンクリート造で復興された天守であるが、内部空間はビル建物と変わらない。ここに、歴史を検証した文化財となりえる評価(復元)と伝統技術を駆使した職人による往時の伝統構法にて、町の核になる部分の復元が最もふさわしいと考えられる。復興天守になった理由は、当時文化庁と市とのやり取りの末、最上階の展望バルコニーが勝ったようであるが、やはり歴史的な評価がきちんと必要であったことは、今になって証明されている。それは、もし、大地震にて現天守が崩壊したら、再建築するには、文化庁の許可が必要となり、今の復興天守をもう一度と言うわけにはいかないのである。一から復元に向けての調査・研究が必須であり、万が一のことを考慮して、今から再構築のための準備することが望まれる。今すぐ結果を出すことが目的でない。上記のように時間をかけてやるべきことは、市がイニシアチブを取って進めることが最も望ましいことであり、将来のまちづくりのスタートとなる。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>
36	<p>三の丸ホールの開業と合わせて、お堀からの正規途上ルートの整備や常設の「お休み処」として店の整備をしたり、かまぼこ通り・箱根口ガレージ報徳広場・文学館・はじめ周辺施設との連携を行い、観光客の流動化を図ってほしい。</p> <p>そのシンボルとして、小田原城の木造化は歴史の再現ができ観光の目玉となっていくと思いますので、実現化を推進してほしい。</p>	B	<p>小田原城を中心とした観光客の回遊性向上については、以前より様々な方法で取り組んでおり、引き続き史跡の整備や周辺施設との連携などを検討し、取組に生かしていきます。</p> <p>天守の整備については、将来の小田原城天守のあり方を検討していくものであり、まずは調査、研究を進めていきます。</p> <p>また、隣接する観光交流センターで案内を行い、回遊性の向上を目指しており、小田原三の丸ホールのパンフレットでは近隣施設の紹介をするなど、周辺施設とも連携しながら回遊性の向上を目指しています。</p>
37	<p>小田原城の木造化が検討されるのは喜ばしいことです。関西には大きな木造建造物が数多くありますが、関東にはあまりありません。京都と奈良に3年ほど暮らしていましたが、大きな木の建物はなぜか「ホッと」気持ちを和ませてくれます。小田原を訪れるたびに目にする小田原城。今も見上げるたびにいいもんだと感じておりますが、これが木造になったのならば、遠方からも小田原城をみるためにやってくる方々も増えるのではと思っております。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>
38	<p>「第6次小田原市総合計画 行政案」の中で『木造化等の天守の整備を含めた将来の小田原城天守や大手門のあり方に関する調査研究を進めます。』とあります。小田原城は耐震補強を含め、平成28年にリニューアルされておりますが、「木造」の天守は歴史ある小田原のシンボルとして一層映えるのではないのでしょうか。木造再建については、いつのと時代の小田原城になるのか、木造再建後に文化財となり得るのか等、課題はあるものの、研究調査を進め、どのような小田原城が市民にとって1番なのかを模索することが重要なのではないのでしょうか。また、木造での再建は、築城当時の技術を用いて行われるものと推察いたしますが、伝統的な建築技術の承継等、歴史・文化的にも有益なことではないのでしょうか。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
39	<p>小田原城天守木造は、小田原のまちづくりのSDGs。天守を木造復原する意義を市民の中に共有認識を広げ、市職員や市議にも、様々な課題が控える中でもその重要性を考える機会を増やすことが必要だと思います。天守を木造化する意義は、経済効果、技術の伝承、郷土愛などの様々な視座から語られています。根源にあるのは、小田原がSDGs都市として世界に誇るまちになるための象徴的存在の必要性だと思います。森里川海連環の大きなポテンシャルを持つ小田原の自然環境の保全のために、都市の木質化は重要な要素です。県西部の豊かな森林資源を活用することで森林の保全、水資源と海の保全がなされます。公共建築も住宅も木造化することで、生活空間にやすらぎがもたらされます。RCの建築物には寿命がありますが、木造建築は、補修を繰り返すことで数百年維持が出来、木材資源の活用、工法技術の伝承が行われ、歴史の厚みある街景観と生活文化が育まれます。日本の環境において、木の文化は、まさにSDGsの具体です。天守木造復原が小田原のまちづくりの象徴に位置づけられ、そのプロジェクトを通じて、小田原の都市デザイン全体が深い意味を持って木質化に向かっていくことを期待したいと思います。</p>	C	<p>地域産木材を活用した公共施設などの木質化を展開するとともに、地域産木材の利用拡大や着実な森林整備、林業・木材産業の活性化を促進し、「木の文化の再醸成」を図るなど、いただいたご意見などを参考とさせていただき、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>
40	<p>人の流れは交通インフラの整備に左右されます。圏央道の完成に伴い、神奈川県内では厚木から相模原にかけて物流拠点、工業系生産施設の集中が起っています。小田原の未来の姿として、歴史都市としてアイデンティティを確立する必要があると思います。その意味から、今回の計画に記載のある小田原城の木造化等の天守の整備の調査研究はぜひ推進してほしいと思います。木材は地域で生産できる持続可能(サステナブル)な材料です。この木材を利用した建設を文化財のみならず、教育施設、福祉施設、公共施設等に広げるためにシンボルとして、また中大規模木造の技術開発のモデルとしての役割も小田原城天守等の木造化に期待したいと思います。天守を木造化する場合、ある態度の規模の木材の加工場・貯木場が必要になります。このような施設整備は小田原市内の建物の木造化に大きく寄与します。鉄筋コンクリートは関東大震災後の復興住宅に採用されてから国内で大きくシェアを大きくしました。現在の小田原城天守も復興天守として鉄筋コンクリート造であることは当然だと思います。そして、日本において鉄筋コンクリート造の建物を100年近く使用して、その欠点も見えてきました。例えば、コンクリートの材料には塩分を含まない砂が必要ですが、その砂の多くは輸入に頼っています。化石燃料を使用して運んでいます。また、鉄筋コンクリート造の建物を100年以上維持するには大変困難です。このような点からも時代背景を考えると木造での文化財の整備は、地域経済、地域環境保全の観点からも推進すべきと考えます。</p>	C	<p>地域産木材を活用した公共施設などの木質化を展開するとともに、地域産木材の利用拡大や着実な森林整備、林業・木材産業の活性化を促進し、「木の文化の再醸成」を図るなど、いただいたご意見を今後の調査研究の参考とさせていただきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
41	<p>「小田原天守閣木造復原」にぜひ期待致します 若い頃に、あこがれの「白鷺城」を観光したことがありました。 案内して下さい方は歴史の先生でもありましたので、 とてもわかりやすく、物語をお話ししてくださいました。本物の「白鷺城」の中で、そこで起きた歴史の一部を聴くわけですから、とてもリアルに感じたのを覚えております</p> <p>小田原は気候風土に恵まれ、交通機関の便宜の良さにも魅力のある街です。 又、近隣が全国からお客様にお越し頂いている「観光地」とあって多くの方が往来しています。さらには、語り継がれている歴史物語はたくさんある様にも感じています。 東海道新幹線で西に行きますと、いくつかの各県のお城が目に入ります。 眺めながら「戦国時代」を想像したりもしますが、やはり「白鷺城」で感じたまでのリアル感はないだろうな。と思ってしまいます。 先人たちの残した沢山の歴史物語がある街だからこそ、少しでも、あたたかさを感じる木造の「天守閣」が似合う街だと実感しています。ぜひとも前向きにご検討して下さい。</p>	B	<p>いただいたご意見などを参考とさせていただきます、将来の小田原城天守のあり方を検討していきます。</p>
42	<p>(仮称)文化によるまちづくり基本計画とはなんですか？</p>	D	<p>「小田原市文化によるまちづくり条例」に基づき、条例の基本理念及び市の責務及び施策方向性に即して定める基本計画です。基本計画は、本市の文化振興に関する施策及びこれによるまちづくりに関し、基本方針及び推進を図るための事項を定めており、令和4年3月に「小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画」として策定しました。</p>
43	<p>小田原三の丸ホールの指定管理への移行とあるが、施設オープン当初から指定管理ではないのですか？</p>	D	<p>当面の間は市による直営方式で管理運営を行い、ランニングコストを精査し、サウンディング型市場調査による民間事業者との意見交換や有識者のご意見も踏まえながら、適切な管理運営方式を検討していきます。</p>
44	<p>子供達がスケートボードを町中でやっていたり駐車場で遊んでいます。危険だと思いませんか？ 公園でやっても怒られてスケートボードを安全に楽しむところがありませんよね。スケートボードはサーフィンに通じるところがあり今回の海を生かした小田原市の活性化にも関係があるかとおもいます。 なので、スケートボードを安全に楽しむところを作って頂きたいです。よろしくお願いします。</p>	C	<p>新たなスポーツ施設の整備については、既存スポーツ施設のあり方と合わせて、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
45	<p>6次小田原市総合計画において、小田原市内に「エンターテインメント空間を演出できる1万人規模のアリーナ施設」の新設をご提案いたします。</p> <p>■エンタメ特化型アリーナが新設されるとどんなまちになるか【“歴史・文化×現代文化“のハイブリッド型都市が現有資源のチカラを引き出す】地域の枠を超えたエンターテインメント(有名アーティストのコンサート、スポーツイベント等)が定期的開催されることにより、近隣の若者はもちろん、交通アクセスの良さがより生かされ全国各地から若者や感度の高い人々が小田原を訪れるきっかけとなり、国内外からの幅広い集客が期待されます。アリーナを目的に小田原を訪れる人々が増えれば、今まで訪れることのなかった層の観光機会へと結びつき、現在有している歴史や文化、自然・美食文化、観光資源などの小田原が有するポテンシャルを発揮できる機会がさらに増えていくことで、より洗練された都市への変化が期待できます。また、大規模な企業説明会や展示会、フォーラムなどでの利用も見込め、多彩な層が小田原を訪れるきっかけとなります。今ある恵まれた歴史・文化に洗練された現代文化を取り入れ、ハイブリッド型都市となれば、「世界が憧れるまち”小田原”」に近づけることができると考えます。</p> <p>■小田原市民への効果【市民や地域団体、未来ある子どもたちの挑戦するチカラを引き出す】小田原は非常に観光資源が多く、外から訪れる方へのイベントやおもてなしは全国有数であると言えます。しかし、市民アンケートの調査結果内の小田原市から転居したい理由の1位が「娯楽や余暇を楽しむ場が少ない」という結果となっている通り、市民の、特に若い層が生活圏内で楽しいと感じる場所が少なく、休日は近隣の他都市に遊びに出かけるという事象が起こっています。市民が生活圏内で「娯楽や余暇を楽しむ場」を創造し、地域の枠を超えたエンターテインメントを誘致することができれば、市民の楽しみを作り出すことができ、この課題を解決できると考えます。現在地域で活動している団体もエンターテインメント空間を演出できるアリーナを活用することができれば、一層洗練された運営が可能となり、地域スポーツや地域文化の振興にも大きく作用します。そして、地域の枠を超えたエンターテインメントが小田原で開催されることにより、地域に住む子どもたちが”本物”や”プロ”に触れるチャンスが格段に増えることとなります。夢や希望を持つきっかけが増え、なおかつ質の高い教育を受けることにより、幅広い分野で活躍する市民が増えることが期待できます。</p> <p>■「世界が憧れるまち”小田原”」のシンボルに【小田原全体のチカラが集結し、市民や関わる人々のチカラを引き出す】休日は地域の枠を超えたエンターテインメントが展開され、まちに人を呼び込み、地域の経済発展や市民の満足度向上につながります。また、平日は市民が利用できる運動施設、防災施設、教育機関、公民連携の拠点などを併設・隣設させることにより、「世界が憧れるまち”小田原”」を象徴し、推進する施設となれば、小田原市のビジョンを実現させるまちづくりの中心的存在になることが期待できます。</p>	C	<p>まずは、令和3年9月5日にオープンした小田原市民ホール(愛称:小田原三の丸ホール)において、著名なアーティスト等による鑑賞事業を実施することで、本市の存在をアピールしていきたいと考えています。また、小田原市総合文化体育館・小田原アリーナは、メインアリーナの定員が6,000名ですが、これまで、大規模なスポーツや文化イベントを行う施設として活用されており、今後も引き続き有効活用していきたいと考えています。</p>
46	<p>酒匂川スポーツ広場に代わる、恒常的スポーツ広場を求めます。子どもときの思い出で、城内球場がありました。小田原城内にサッカーや野球、ソフトボールなどができるスポーツ広場があるといいです。小田原駅からのアクセスが良く、全国から集まりやすいです。また、三の丸ホールとも併せ、市の中心市街地の活性化にもつながると思います。</p>	C	<p>酒匂川スポーツ広場を含むスポーツ施設全体のあり方については、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
47	ほぼ毎年のように大雨が降ります。そうすると小田原市では増水した酒匂川が河川敷のグラウンドを破壊します。そうするとその度に小田原市が税金を使ってきれいに整備します。もったいないと思いませんか？河川敷のグラウンドを移設したほうがよいと思います。私の案として考えたのが、小田原城址公園内の元野球場や二の丸広場などを野球、ソフトボール、サッカー、ラグビーなどができる多目的広場にする案はどうでしょうか？小田原駅からも近く小田原のシンボル小田原城もあるのでお城の中にある多目的広場をコンセプト。三の丸ホールも一体にした広場は、選手や関係者、見に来る人などたくさんの人に小田原の魅力をアピールすることもできるので、移設するならこの場所がよいと思いました。是非ご検討下さい。	C	酒匂川スポーツ広場を含むスポーツ施設全体のあり方については、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。
48	外国籍住民の日本語教育が浸透し、日常生活での交流が生まれているとともに、学校における外国語教育もあいまって、海外に出て学びたい、活動したいと思う子どもが増えていることをどのように確認するのですか？	D	本市で実施している国際交流事業(ときめき国際学校・海外姉妹都市青年交流事業)への応募者数は、一つの指標になると考えています。
49	他の国の文化とか世界とつながる機会に触れという言葉が出てくるが、バブル時代に小田原で実施されたオーシャンクルーズのイメージと重なる。P.8 に書いてあるように市税 330 億の現状でふさわしいものか考えてほしい。	C	外国籍住民の増加やインターネットの普及により、日常生活において、他の国や地域のさまざまな文化や習慣に触れる機会は増えています。身近なところから、海外に興味を持つと同時に自国を見つめ直す契機とし、多文化共生の推進、子どもたちの国際理解の促進につなげていきます。
50	再生可能エネルギー導入量とは何に再生可能エネルギーを導入した量のことでですか？	D	市内に導入される再生可能エネルギー設備全体の発電容量です。
51	環境エネルギー対策として、核融合発電所による産業基盤、農業人口低減による農業の工業化(Amazon 化)システムをデザインした S D G s 街づくり。	C	持続可能な社会の実現に向けて、再生可能エネルギーを活用した先進技術の実装に取り組んでいきます。
52	小水力発電と蓄電設備をセットで設置することで、豊富な水資源をエネルギーへ活用可能と考える。	C	市内の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは太陽光発電が高いため、建物や土地への太陽光パネルの設置を中心とした施策を実施していますが、小水力発電もポテンシャルの一つとして検討を進めていきます。
53	マイクログリッドの取り組みこそもっと市民に知らせるべき。	B	地域マイクログリッド事業は、現在、モデル事業を構築中ですが、運用開始後も市民に対し周知を行っていきます。
54	都市住民の定義を教えてください。	D	東京都、横浜市及び川崎市のいずれかにお住まいの方を指しています。
55	小田原駅西口・東口の民間再開発事業やストリートの形成が進み、小田原駅周辺のにぎわいが創出されていることをどのように確認するのですか？	D	小田原駅周辺流動客数や優良建築物等整備事業を活用した住宅戸数といった指標を注視しつつ、各地区での公民連携でのまちづくりの取組の進捗を踏まえて総合的に判断していくことになると考えています。
56	ストリートの活性化について、お堀端通り、御幸が浜、蒲鉾通りに抜ける通りに小型電気モビリティを使用して、不定期な動線としても良いのではないかと？民間事業の参入もありで。	C	ご意見については、小田原駅・小田原城周辺のまちづくりを検討する上で参考とさせていただきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
57	<p>市民会館の跡地利用として、まず更地にして、どういう風景が広がるかを確認した上で、以下を提案させていただきます。</p> <p><1学橋臨時駐車場の拡大>市民会館時代では保育園の発表会などがあるだけで、周辺の民間駐車場も含めて満車になる状況であった。この案では少なくとも見積もっても40台→90台に拡大できる。※景観と維持費用のため、基本的に平面駐車場を提案。</p> <p><2大手門(鐘つき堂)の整備>お濠側からも、国道からも見えず、ガイドさん無しで訪れる人はまばら。日清亭、21区事務所、司法書士事務所の移転を要請および支援。東電駐車場には建物を建てないよう要請。小田原城の大きさを感じる上で重要な門跡であり、向かいの裁判所と合わせしっかり整備すべき。</p> <p><3山車小屋の設置>鐘つき堂の隣に21区の山車倉庫があるが古く危険で、せつかくの城跡を台無しにしている。当の山車は、昭和1年製作と小田原市内でも古い部類であり、松原神社の神輿庫や23区の山車倉庫を参考に、祭典期間以外でも広く市民や観光客に見てもらえるようにすべき。鐘つき堂と相乗効果を生むような倉庫建設に補助をしてはどうか？<なお、小田原(城下町≡旧小田原町)の祭りは、神輿の担ぎ方と、屋台山車の形状+お囃子が日本全国でも特有のもの。>また、各自治会や神社が行える活動には限界があり、市政の支援が必要。これは観光収入で結果的に市政にも還元される。</p> <p><4道路・歩道の拡幅>小中学生の通学路ながら、市民会館時代は歩道部が狭い割に交通量が多く、登下校にも安全とはいえない状況であった。また、お堀端からの誤進入や、浜田耳鼻科の駐車場から出て左折してしまう逆走車も散見された。よって、市民会館跡地と本町臨時駐車場の北側一部を、車道と歩道に使用し、車道においては片側1車線の対面通行を可能とすべき。これにあたり、大聖ビル・高橋ビルには移転の要請と支援が必要。</p> <p>以上、これらにより国道1号線の通過客(特に東京方面から下って来た車)は目の前に、天守閣・大手門・お濠+山車小屋が現れ、城下町を感じる事ができる。車を停めて観光したくなる客動線を構築でき、9月完成の三の丸ホールとの動線を相互に強固なものにする。観光政策が「点から線」へと変わってきてるが、さらにその上、「線から面」に格上げできる。∴このような観点から、市民会館の残置や、ハコモノ(新施設)の建設は、景観・観光・交通・費用などの面から不適切と考える。</p>	C	<p><1学橋臨時駐車場の拡大について>現在の本町臨時駐車場を含む市民会館等の跡地活用については、平成30年に策定した「三の丸地区の整備構想」において、整備の方針を段階的に位置付けていますが、三の丸地区の整備構想以降、社会情勢や周辺環境等が変化していることを踏まえ、整備機能を再検討しているところです。ご提案については、整備機能を再検討をする上で、民営駐車場を含む周辺の駐車場の充足率などの状況を考慮しながら、設置の有無や規模等を判断していきます。</p> <p><2大手門(鐘つき堂)の整備について>大手門については、重要な資源であると認識しており、その復元の可能性について検証しながら資料の調査・研究を行い、史跡にふさわしい整備を進めていくための将来像を検討していきたいと考えています。</p> <p><3山車小屋の設置>山車小屋の設置はひとつのご意見ではありますが、市内の他の事例は民間の助成制度などを活用したものです。ここは景観計画重点区域のため、建築物の外観を良好な景観形成に著しく寄与する修繕を行う場合は補助を行っています。なお、特色ある小田原の祭りにかかる有形・無形の民俗文化財(山車・神輿・小田原囃子など)を次世代に確実に継承していくために、どう支援の手立てをしていくかについては、今後の検討課題としていきます。</p> <p><4道路・歩道の拡幅について>三の丸地区の整備構想に位置付けている短期計画の整備エリアは、市民会館跡地をはじめ、本町臨時駐車場を含むエリア一体を対象としています。整備機能を再検討し整備を進めていく中で、道路・歩道の拡幅や移転等が必要な物件については、その必要性に応じて調整していきたいと考えています。</p>
58	<p>箱根口の整備とその名称の優位性確保のため、国道1号線から「小田原城の門がある」と分かるような工夫をする。門は土台がある三の丸小側をまず再現し、対面側も整備を行う。これにあたりスポーツ会館を三の丸小のように城下町らしい建物、箱根口門とつながるようなデザインとした増改築をする。</p> <p>現状ではトレーニング室や道場が非常に狭く、駐車するにも停めにくい。建築から年月も経っており、防災拠点の確保(感染症以前に、三の丸小だけでは足りない)という面からも、いずれにしろ増改築は必要である。また隣接の土産物店であるが、立地的に孤立しており不便であるため利用客が少ない。むしろ向かいの藤棚駐車場側に移転すれば、観光バスの客が立ち寄れる上に、空いたスペースを用いてスポーツ会館を拡大できる。現在の受付および観光ガイド待機所を2階建てなどにして統合したほうが気軽に立ち寄りやすい。</p>	C	<p>ご意見については、今後のまちづくりを検討する上での参考とさせていただきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
59	<p>世界が憧れるまち”小田原”を目指すならエレベーター位あっても良いのでは？</p> <p>世界的に見ても歴史や文化、自然・食環境・交通アクセスに恵まれた小田原は、他都市が羨むほどの可能性があります。その可能性をいかに発揮し、世界中の人が行ってみたい、住んでみたいまち「世界が憧れるまち”小田原”」を目指します。と計画には書かれております。</p> <p>この課題の中で、特に弱者や障害を持つ方、子育て世代にも注目していただきたいと思います。その意見の一つに、小田原駅前の地下街への導線の問題について申し上げます。現在、地下街へ車椅子やベビーカーで行きたい場合は、ラスカの中にあるエレベーターで降りることが唯一の方法です。これは、本当に優しいまちづくりなのでしょうか？先日、駅前商店会側に障害者の方の車が止まり、地下街の「みんなのトイレ」に行きたかったのですが、ラスカまで行くのに大変で周りの人たちが持ち上げ地下まで降ろしたことがあります。もしラスカと反対側に一か所でもエレベーターがあれば、どれほどの方が利用するか？</p> <p>どれだけ弱者に優しいか？は一目瞭然だと思えます。大雨でも車椅子で駅に向かうのに手前でエレベーターに乗り地下街を通り、ラスカの3階まで上がれば傘もいりません。現状はロータリーまで傘をさして向かい、ラスカに入るか、大雄山線側のエレベーターを使うしか方法はないのです。他にも不便な所や施設もありますが、ぜひ小田原の駅前の顔として、「見えるまちづくり」「弱者に優しい施設づくり」をお願いしたいと思えます。</p>	C	<p>小田原駅前での地下街へのエレベーターの設置は、スペースの確保や地下施設への構造的影響などから、現状では困難な状況です。今後、民間による再開発などの動向を見ながら検討したいと考えています。</p>
60	<p>人口増加のため、「小田原駅周辺地区の高層マンション(タワーマンション)の建築の推奨」</p> <p>小田原駅は新幹線も停車し新宿、東京方面にもアクセスしやすい地域です。高層マンションの需要は高く人口増加に直結する良い案だと考えます。</p>	C	<p>小田原駅周辺は、都市再開発の方針において土地の高度利用や都市環境を改善するため、計画的な再開発が必要な地区に位置付けられており、再開発事業を促進することで定住につなげ、人口増を図っていきたいと考えています。</p> <p>なお、都市計画で定める高度地区では、小田原駅周辺地区の高さの制限については緩和規定を設けており、天守閣の標高を限度としています。</p>
61	<p>御幸の浜の活性化として、湘南地域と比較して御幸の浜は波が立ちやすく、水深もあるので一般的な海水浴やSUPやカヌーなどでの利用は制約がある。海が一般的な海水浴に不向きという点から御幸の浜プールは補完的な用途があるが、その存在が十分に宣伝されていないかと考えられる。また海では安全に「オープン・ウォーター・スイミング(OWS)」の体験や練習ができるような漁協などと協力したような体制があれば、「海水浴には不向き」ではなく、「OWSに適した」という評判を得ることができるとも思われる。また「ペブルビーチ」も特徴となりうるし、個人的には、波に浮かんで海中で聞く、引き波の鳴らす砂利の音も御幸の浜のユニークな魅力と考えている。</p>	C	<p>近年、海の利用は多様化、複雑化していることから、漁業者をはじめとした関係者と意見交換を行い、漁業と海洋性レクリエーションの共存に向けた研究を進めます。また、御幸の浜プールを含むスポーツ施設全体のあり方の検討については、第6次総合計画の重点施策に位置付けています。</p> <p>いずれにしても、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。</p>
62	<p>御幸の浜については夏季のみ稼働しているプール施設を改善し、民営化や公設民営によって通年利用可能な施設(トイレ、シャワー、カフェレストランなど)を付帯させることにより、夏に限らず、いずれの季節にも快適に海からの日の出、真鶴半島の景色、潮騒の魅力を楽しめる場所とすることが可能と考える。</p>	C	<p>御幸の浜プールを含むスポーツ施設全体のあり方については、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。</p>
63	<p>交通の妨げとなる駐停車を減らしたり、カーシェアリング拠点としたり、道路事情の劣る近隣において自家用、来客用、配達用に共同利用できるような駐車場については、市内に豊富に存在する寺社所有の檀信徒専用駐車場を活用できればと思う。賃貸事業を行うと寺社側に税法上の問題が生じるが、それを迂回、軽減できる方法を公共目的のため、あるいは民間駐車場運営会社などと策定できればよいと思う。</p>	C	<p>ご意見については、今後のまちづくりを検討する上での参考とさせていただきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
64	中心的商業施設であるコロナやダイナシティが駅から遠い。施設の無料バスなどもあるが、やはり駅から遠く、車を持たない近隣以外の市民にとっては行きづらい場所で、路線バスも経路が複雑であり、曜日によっては混雑している。また、この近隣に住んでいる住民は、「土日は車を出せない事がある」(新幹線ガード付近住民の話し)との事。	B	公民連携での公共交通の利用促進により、混雑軽減に取り組んでいます。なお、路線バスの経路は、バス事業者のHP等で検索できますのでご活用ください。
65	みんなが集まれるビーチパークの整備	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
66	酒匂海岸は利用客が大変多いが、トイレ、シャワー、津波避難塔など他の海にあるインフラが全く無いので整備	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
67	子供も楽しめる浅瀬のビーチが欲しい	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
68	酒匂海岸は利用客が大変多いが、トイレシャワーや津波避難塔など他の海にあるインフラが全く無い。整備すべき。また、釣りの方やバーベキューをするひが多く、駐車場が狭く、止まらない事が多いので、あと3倍くらい広くしていただきたい。そうすることで、酒匂周辺のお店も儲かるようになるし、人の流入が増え良いと思う。ただし、ゴミなどのルールを徹底しなければならぬと感じる。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
69	御幸の浜を、安定してサーフィンが可能な人工リーフを設置し、移住定住交流人口増加につなげるべき。藤沢市の海のようにすれば、移住者が増え、海をベースに生活する人が増えおしゃれな、海の街をアピールすることができるだろうし、そこで新しいカルチャーが生まれ、小田原市にとってとても良い方向に進むと思います。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
70	御幸の浜周辺に駐車場が無いので、ビーチパークと複合した駐車場を整備すべき。	C	市として、海岸周辺の駐車場整備については、近隣住民の方への影響もあり、整備の予定はありません。小田原漁港西側エリアには、漁港の駅TOTOCO 小田原敷地内に46台、隣接する県駐車場に120台の駐車スペースを用意しています。
71	海の近くにおしゃれなカフェをたくさん作ってほしい	C	カフェなどの飲食店や小売店等の出店は、消費者の需要が見込まれ、採算性が高いと事業者が判断した場合に生まれるものであり、出店希望者から相談があれば対応していきます。
72	気軽に海水浴ができるビーチパークを作ってほしい	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
73	サーフブランドなどおしゃれな雑貨が売っている店がたくさんほしい	C	雑貨を扱う小売店や商業施設の出店は、消費者の需要が見込まれ、採算性が高いと事業者が判断した場合に生まれるものであり、出店希望者から相談があれば対応していきます。
74	海を生かしたまちづくりについて、ビーチカルチャーや交流拠点となる、おしゃれなビーチパークを整備すべき。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
75	海を生かしたまちづくりについて、御幸の浜周辺に駐車場が無いので、ビーチパークと複合した駐車場を整備すべき。	C	市として、海岸周辺の駐車場整備については、近隣住民の方への影響もあり、整備の予定はありません。小田原漁港西側エリアには、漁港の駅TOTOCO 小田原敷地内に46台、隣接する県駐車場に120台の駐車スペースを用意しています。
76	海を生かしたまちづくりについて、私は海のない埼玉の出身だが、小田原はせっかく街からすぐ近くに海があるのに、普通に生活していると海の存在を身近に感じる事がなく、非常にもったいないと思う。ようやく漁港周辺が、一般客向けの店舗ができて駐車場が解放されたり、totoco ができて賑わうようになってきたが、自然の海を感じる憩いの場が足りない。 ぜひ御幸の浜周辺をビーチパークとして整備してほしい。 海から離れたところに住む市民でもアクセスしやすいように駐車場を増やすとともに、駅からの公共交通手段を増やしたり、小田原城やかまぼこ通りをつないだ街歩きコースをアピールすることで街中の広い範囲を活性化することができる。 小田原の海はドン深で危険な面もある。ビーチパークというキーステーションを設けることで、安全な楽しみ方を知らせることもできる。 海を身近に感じられない理由の一つに西湘バイパスによる断絶もあると思っているが、一方でビーチに出る場所を限定できる。これを生かして、街と海を上手につなげてほしい。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
77	小田原の海の利用について。 市外からの利用者です。サーフィンや、釣りを通じて湘南や小田原の海を利用させて頂いています。 早速ですが、小田原の海を利用させて頂くときにいつも感じる事があります。それは、駐車場の環境です。特にトイレや公共の駐車場がない事です。例えば ①酒匂の駐車場:トイレ設置や路面の舗装をしてほしいです。出来れば無料のままで。 ②御幸の浜駐車場:駐車場がタイムパーキングのみ。割高…こちらに市営の駐車場があると嬉しいです。 ③早川漁港の駐車場:狭いし、止めづらいし、朝は漁師さん専用?こちら市営の駐車場があると嬉しいです。 私見ですが、小田原の海沿いにはゆったりとした、環境の整った駐車場が、無いような気がします。是非とも整備をお願いします。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
78	海を活かした街づくりをぜひして頂きたいです。せっかく遊泳可能な海があるにも関わらず、湘南方面の海とは違い、盛り上がり欠けていると思います。駐車場やシャワー、トイレ設備が整っていないのも残念です。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
79	海を活かした街づくりについて、SNS 映えする様なカフェや鎌倉の様に食べ歩きできるゾーンなどあれば若い子達もたくさん小田原に遊びに来てくれるのではないかなと思います。小田原が素敵なお海のある、SNS 映えする様な有名な観光地になればいいかなと思います。	C	県が事業主体となり進めている早川海岸整備において、背後地の生命、財産を守ることはもちろん、漁業と共存しながら、市民の憩いの場となるような海岸の整備に向け、県に働きかけていきます。なお、小田原漁港やかまぼこ通り周辺地区は、相模湾で水揚げされたばかりの魚介類が楽しめる店舗や海を活かしたイベントの開催等で人気の観光スポットとなっており、SNSでの情報発信により若いリピーターも増えています。ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
80	海を生かしたまちづくりについて。小田原市が初めて海についてこのような動きとても良いことだとおもいます。自分は縁があり、小田原市の海で遊ばせてもらっています。他湘南地域と違い、どん深であり遊泳にはてきさないと思いますが、地域の方の憩いの場として、散歩や釣り、その他 SUP など楽しんでいる方々があります。そこで、トイレ、シャワー、遊歩道の整備をし、地域の方にとって海をもっと身近な物として感じられる様な整備を願っています。まずは、御幸の浜にシャワー、駐車場等気軽に立ち寄れる様になるといいなとおもいます。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
81	海の利用の駐車場を整え欲しいです。	C	市として、海岸周辺の駐車場整備については、近隣住民の方への影響もあり、整備の予定はありません。小田原漁港西側エリアには、漁港の駅 TOTOCO 小田原敷地内に 46 台、隣接する県駐車場に 120 台の駐車スペースを用意しています。
82	おしゃれなビーチパークが欲しい	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
83	初心者でも楽しめるサーフポイントが欲しい(浅瀬のビーチが欲しい)	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
84	海の施設を充実して欲しい	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
85	小田原から東京へ通う子育て世代の者です。コロナ禍で小田原の魅力が再評価されるなか、是非海を活かした街づくりを行なってもらいたいです。大磯以東に比べせっかくの海資源が活用されずもったいないと日頃から感じています。御幸や酒匂と言ったビーチがあるので是非そこを整備していただきたいです。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
86	せっかくある海を活かしてほしいです。贅沢を言うのであれば湘南に相応しい藤沢や辻堂平塚のビーチパークのような幅広い年代が楽しめる場所を考案していただきたいと思います。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
87	海を生かしたまちづくりについて、海を観光資源として活かせていないと感じるため、市街からの来訪者を呼び込む為に海辺を楽しむ環境を整備するべきと思います。また、海が市民にとっての生活環境の一部として認識され親しまれる為の意識づけや環境整備が必要と感じます。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
88	マリレジャーを楽しむ人向けにトイレやシャワー設備の設置	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
89	観光客向けのおしゃれなビーチパークの整備(ボードウォークやカフェ等)	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
90	ファミリー向けに子供が安心して遊べる浅瀬のビーチの整備	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
91	交通アクセス向上の為の海沿いの駐車場の整備	B	市として、海岸周辺の駐車場整備については、近隣住民の方への影響もあり、整備の予定はありません。小田原漁港西側エリアには、漁港の駅TOTOCO 小田原敷地内に46台、隣接する県駐車場に120台の駐車スペースを用意しています。
92	ドッグランやスケートボードパーク等、海に直接興味がなかった人達に訴求する設備の整備	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
93	環境整備と併せて、海のまちとしてのブランディングとPRが必要	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
94	ビーチパークを作ってサーフィンやスケボーが出来るようにしてほしい！	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
			す。
95	茅ヶ崎湘南夢ワクワク公園、横須賀海風公園の様な海とカルチャーの発信的な施設が必要だと思います。この点小田原はとても弱いですね。どこでも「〇〇禁止」って事が多いです。	C	海岸の管理者は神奈川県であり、市の一存により海岸整備を実施することはできません。しかし、本市にとって、海は重要な観光コンテンツであるため、ご意見を参考に今後の活用について検討していきたいと考えています。
96	人口の社会増社会減の問題は小田原市に限ったことではなく他の自治体においても同様であり、他自治体においても社会増のために訴求と環境整備の移住定住促進策を展開してくると思いますが、社会増につながる小田原としての強みはどのようなものがありますか？	D	本市には、長い歴史の中で先人より継承されてきた歴史・文化、森里川海がオールインワンでそろっている豊かな自然環境、都心にもアクセスしやすい充実した鉄道網や道路網があり、新しい生活様式へと変容しはじめている社会において、こうした本市の魅力は域外の方を呼び込むチャンスになると考えています。
97	人口増対策に、ロボット化、海外からの実習生の活用を。また、子育て等支援金の充実、給付金の配布、早川、根府川等沿岸地域に小規模工業輸出入港湾、の増設、その他、リモートワークでのプログラミング化拠点の設立	C	外国人の技能実習は、滞在可能期間が最長3年となっていることから、直接、定住人口増につながるものと思われませんが、技能実習制度を通じて、人づくりへの国際貢献や関係人口の創出に寄与するものと考えています。子育てに係る給付等の支援の充実については、現行制度の状況をよく見ながら、国や県の施策の方向性等も踏まえ、支援が必要な人に届くように引き続き検討していきます。また、業務のロボット化(RPA)は令和元年度に導入を開始し、順次適用業務を拡大しているところです。
98	人口増を明確な目標に掲げた点については大いに評価できる。今後の具体的な施策について期待するところである。	B	ご意見として承ります。
99	私が日々過ごす中で行政に対し強く希望することは、学校や福祉、道路などのライフラインなどの施設に充実したよりよい環境を望みます。そのためには、税の増収が不可欠ではないでしょうか。税の増収を得るためには、当然人口を増やすことになります。今回の総合計画案の構想にある『9年で人口20万人にする』について私も大いに賛成です。しかし、今の状態のまま本当に人口増加は望めるのでしょうか？過去から今も小田原市で推奨している『空家の再利用』だけで人口1万人を増やせると本気で思いますか？私個人的には『空家の再利用』は何の成果もなく失敗だと思います。新たな人口を増やす具体的な方法が必要ではないでしょうか？やはり人口増加にはその受け皿が必要だと思います。そのためには既成市街地からいかに住宅供給面積を広げられるかがポイントです。	C	第6次総合計画では、空き家をはじめ、中古物件として不動産流通にある住宅を住宅ストックとして捉え、情報発信をしていきます。また、既成市街地における低未利用土地の活用も立地適正化計画における誘導施策に位置付けており、あらゆる方策により人口20万人規模の都市の実現を目指していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
100	<p>市は健康寿命の延伸を重点施策として取り上げています。そのこと自体は結構な事ですが、市財政において扶助費の増加が避けられない現状を考えると敬老祝い金の取り扱いを再考すべきと考えます。</p> <p>厚労省によると国民の年齢階級別医療費は65歳以上が54.6%を占めています。高齢者割合が国全体より多い小田原市の場合はそれ以上になっているかと思えます。</p> <p>高齢者の多くは自宅での平穏な死亡を望んでいるのに、実際は病院での死亡が大多数を占めているのが現状です。そして病院では本人のQOLを考えると疑問があるような延命治療を施され、医療費の増加の要因となっています。</p> <p>厚労省では後期高齢者医療費の見直しをしましたが、予めから「人生会議をしてみませんか?」と呼びかけています。</p> <p>市は今の敬老祝い金制度を廃止し、75歳になった人に後期高齢者医療制度の説明に併せて人生手帳を配布し、自分の人生を振り返り、今後の過ごし方を考え、人生の終末について家族とも話し合う機会を持つように促すことが有効であると考えます。</p>	C	<p>敬老行事については、関係団体(民生委員、自治会等)の代表者と市が、数年ごとに検討会を開催し、対象者や金額などの見直しを行っています。今後の祝金のあり方についても、その中で検討していきます。</p> <p>人生会議については、「在宅医療と介護の連携推進」の取組の中の1つとして、実施していく方針です。</p>
101	<p>詳細施策3障がい者サービスの充実を見ますと目標値で、介護給付及び訓練等給付の利用者数として基準値2108人と掲載されていますが、この数字は一見するとかなりの利用が、現在されているように見受けられますが、たとえば家事援助、身体介護などのサービスは同一障害者がサービスをだぶって利用している事もありますので、介護給付及び訓練等給付の延べ利用者の数値が過大な印象を与えるので、例えば、数値は同一障害者による重複利用の延べ数ですとの表記等をされた方が、総合計画を閲覧される方に障害者福祉の置かれた正確な立ち位置を伝えることが出来ると思えます。</p>	B	<p>介護給付の中の居宅介護サービスには、身体介護や家事介護通院等介護などの種類がありますが、居宅介護サービスを複数ご利用の方については重複しないようにカウントしています。ただし、同じ介護給付費の中の別のサービス、例えば、居宅介護サービスと重複して短期入所などをご利用の場合、それぞれのサービス利用者ということでカウントしています。いずれにしても、介護給付と訓練等給付にかかるサービス別実利用者数を目標値としています。</p>
102	<p>新市立病院には緩和医療、ホスピス病棟の設置も検討して欲しいと思います。</p>	D	<p>市立病院は、がん診療連携拠点病院として、主に一般病棟に入院中のがん患者に対し適切な緩和ケアを緩和ケアチームを整備し行っています。新病院建設基本計画では、引き続き高度急性期・急性期医療を中心として地域の医療を守り続けることとし、年々増加しているがん患者の緩和ケアニーズに柔軟に対応するため、院内・院外の様々な部署や機関との連携体制を構築し、緩和ケア医療の充実に努めることとしています。なお、神奈川県地域医療構想における県西構想区域における将来の医療提供体制に関する構想では、「居宅や介護施設におけるがんの緩和ケア等の構築に向けて、在宅医療、介護を担う関係機関の連携強化を推進する」としています。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
103	<p>小田原の海岸は、かつては波打ち際まで 100m～200mある砂浜でした。子供達は、凧あげや野球に興じました。御幸ヶ浜は、夏ともなればビーチパラソルが並ぶ海水浴場として賑わい、木下大サーカスのテントを張った興業が行われました。多くの小田原市民にとって、原体験の一部でしたが、今やその姿はなく、石ころだらけの狭い海岸になってしまいました。</p> <p>砂浜が豊かであることは、防災上も重要です。大きな波が来ても砂浜で吸収されて、滅多に堤防まで来ることはありません。今は、台風のが西湘バイパスをすぐに崩壊させるようになりました。</p> <p>酒匂川の河床がこの 40 年の間に急速に上がって、河川断面が相当減少しています。水を運ぶ川のキャパシティが減って、大雨が降るとあふれ出る危険が現実性を増しています。飯泉の取水堰は、今や水をせき止めているのではなく砂をせき止めてしまい、本来海に流れていった砂が貯まりに貯まって、栢山よりも上流に至る河川断面を減少させています。</p> <p>砂浜の後退と河床の上昇は、砂を海に流さない状態を作ってしまったことが原因であることは明白です。ダンプカーでわずかな量の砂を海に運んでいます、自然に流れるようにする根本的な対策が打たれないままです。</p> <p>飯泉の取水堰を、取水はするが、砂はすべて海に流れるように大改良することは技術的には可能だと思います。また、既に溜まってしまった膨大な量の砂を 24 時間継続的に海に運ぶ設備も可能だと思います。</p> <p>このままの状態で放置しておくと、5 年以内に、酒匂川の洪水と海岸の浸食による被害が頻発するでしょう。</p> <p>かつての海岸や河床を原体験として持つのは高齢者だけになり、大半の市民も行政もこの問題に現実的なイメージを持って気づいていないことが恐ろしいのです。総合計画の中の防災部分だけでなく、都市景観、教育、観光商業にも横断的に関わる重要問題として取り上げるべきだと思います。</p>	D	<p>管理者である県では、山から海に至る各方面の管理者が連携し合う、「酒匂川総合土砂管理プラン」を策定し、酒匂川の生態系にも配慮しながら堆積土砂の掘削や海岸の養浜事業を実施しています。</p>
104	<p>現在、県内河川において堆積土砂の除去が進められているが、単に土砂を取り去るだけでなく、川床の掘り下げを進めれば、水路としての活用も可能になり、氾濫危険も減少するうえ、＜堆積砂の効率よい排出により海岸養浜＞につながる。川砂の利用価値はあるが、溜まった分を全て建築用に回せば、文字通り国土の減少になる。飯泉取水堰の吐出量もこれを踏まえて設定して欲しい。御幸の浜の場合、自分が小学生だった 35 年ほど前は、今の海岸線から 20m は沖合いだったのではないだろうか？供給される砂が無ければ減るのは当然で、いくら T パー等を作っても防波堤としか機能しない。永続的で自然な砂の供給が解決策と考える。</p>	D	<p>管理者である県では、山から海に至る各方面の管理者が連携し合う、「酒匂川総合土砂管理プラン」を策定し、酒匂川の生態系にも配慮しながら堆積土砂の掘削や海岸の養浜事業を実施しています。</p>
105	<p>整備すべき自然環境に酒匂川を提案します。</p> <p>酒匂川に神奈川県水道事業団の取水堰がありますが、堰があるために川底があがり砂が海に流れず河川の氾濫リスクが生まれました。さらに、海に川の堆積物が流れないことによる海岸浸食、魚などの海産物資源の減少なども、この影響です。</p> <p>小田原市民があまり受益しない神奈川県の水道施設で、自然が失われ、魚は少なくなり災害の危険にさらされている現状をから、10年後はもう一度豊かな小田原の海・山・川が戻ることを願います。</p>	D	<p>管理者である県では、山から海に至る各方面の管理者が連携し合う、「酒匂川総合土砂管理プラン」を策定し、酒匂川の生態系にも配慮しながら堆積土砂の掘削や海岸の養浜事業を実施しています。</p>
106	<p>現在設置されているマンホールトイレの場所と今後追加を考えている場所を教えてください。</p>	D	<p>現在町田小学校に設置しています。今後、広域避難所等防災拠点への整備を検討しています。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
107	<p>水に関して、上下水道と防災の枠組みの中に記述がありますが、地下水の重要性についての視座が不足しているのではないのでしょうか。災害時の給水について、給水車で供給にまずは眼が行っています。小田原には、浅井戸も自噴井戸もまだ多数存在します。市内の井戸をその普段の使用の有無も含めて調査し(勿論飲料に適するかどうかの検査も伴うわけですが)、災害時に活用できる体制を敷くことを課題にすべきでしょう。</p> <p>特に災害時には、十分な飲料用、洗濯用、洗浄用の水が最も重要な存在になります。給水車で供給には限界があります。小田原は、地下水が豊富である利点を活かした防災時の水対策を考えるべきではないでしょうか。</p>	C	<p>現在、広域避難所等に耐震性貯水槽を設置して水を確保しているほか、災害指定井戸として、市内に約170本の自噴井戸を指定しておりますが、引き続き、市内井戸水の利用の視点を含めた災害時の飲料水及び生活用水の給水体制の整備について、国・県等の動向を注視しながら検討していきます。</p>
108	<p>施策 7 防災・減災に関して、詳細施策に「女性の参画」を追加してほしい。地域、地元の情報を多く持っている女性、女性の視点は不可欠。</p>	A	<p>女性の視点の重要性は認識しており、各地区の避難所運営委員会では避難所運営に女性のニーズを執り入れるため、女性メンバー登用の促進や委員への意識啓発を行っているほか、市の配備職員の1/3を女性職員にするなど、すでに男女共同参画の観点で対策を講じています。更にこの視点を推進するため、総合計画に記載を追加しました。</p>
109	<p>関係機関4件とはどこですか？</p>	D	<p>湘南七市四町防災事務連絡協議会、中越大震災ネットワークおじや、県西部広域行政協議会、東海道五十三次との連携を指しています。</p>
110	<p>他県での災害発生時にあらかじめ決めた避難先として空き家を活用することを検討してはどうか。</p>	D	<p>所有者との合意形成や、空き家の発生が流動的であること、空き家は古い建築物が多く、避難先としての適正把握など、様々な課題があるため、避難先として空き家を活用することは検討していません。</p>
111	<p>非日常型体験学習とはどのようなものですか？</p>	D	<p>家庭や学校では得られない体験を通して、日ごろ当たり前と思っていた物事の大切さを改めて認識するとともに、学校や年齢を超えた仲間との交流を通して自主性・自立心・協調性・創造性などの豊かな人間性を育む事業です。</p>
112	<p>先年、PISA 調査で日本の小中学生の読解力低下が明らかになり、文科省でも読解力向上プログラムを取りまとめたと報じられました。9月9日の読売新聞夕刊に、「小学生時代に読書量が多いほど、中学生や高校生になって授業が楽しいと思えたり、新しいことに興味を持った割合が高い」との文科省の追跡調査結果が紹介されました。</p> <p>読解力はすべての学習の基礎になるものです。子供の時から読書に親しむ癖を身に付ける事は何時の時代にも必要な事だと思います。学校図書館の充実を図り、資格を持つ学校司書の常駐体制を目指すべきだと思います。</p>	C	<p>ご指摘のとおり、読解力はすべての学習の基礎であり、その向上は大変重要なものと考えています。市では、学校司書を全校に配置し、読書環境の向上、学校図書館の充実を図っていますが、今後も学校司書が十分にその能力を発揮できるよう、適切に対応していきます。</p>
113	<p>ステップアップ教育は埼玉県の結果も読ませていただいたが、結論的には、一人一人の児童の伸びを見ていくとなっているものの、教師の力量の底上げが目的でそのために子供たちヘテストの負荷を与えるものになっている。福井県の教育委員会の取り組み(一人一人の個性を伸ばす)こそ、本当に子供たちの自己肯定感を高めるものだと思う。ぜひ授業の運び方、子供たちの生き生きした姿を見てほしい。ステップアップはやめるべき</p>	C	<p>ステップアップ調査は、個々の児童生徒の成長度合いを捉えることにより、きめ細かい指導や取組に生かすためのツールです。教師の指導力向上も期待されますが、これも児童生徒に還元されるものと考えています。調査の実施に当たっては、児童生徒の過重な負荷にならないよう、取組を進めていきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
114	伝統工芸品の小田原漆器は丈夫な木製品であるため、脱プラスチックにも貢献できるものと考えます。	A	小田原漆器をはじめ、木製品全般の流通は脱プラスチックに効果的と考えています。木製品の持つ温かさや耐久性、職人の技術などのほか、環境への好影響の期待も含めて情報を発信していくことを検討します。
115	小田原駅地下でダンス(ブレイクダンス)の練習 or イベントを行いたいです。	C	地下街の公共広場は過去にダンスイベントの実施実績があり、主催者より利用希望をいただき、公共広場の運用目的に合致すれば、調整のうえイベントの実施が可能ですが、練習等での使用は難しいと考えています。
116	主な取組「新規就農者の支援」について、目標値の基準値(令和2年度)に63人ありますが、年齢の内訳(内定年後の就農者)地区別では、どこの地域が多いですか？	D	新規就農者数は令和2年度までで、60歳以上の方は12名おり、一番多い就農地は久野の3名となっています。
117	もしも耕作地が不足していれば、荒廃地調査で希望者に対し、農業委員会(貸出制度)に交渉して耕作面積の拡大を計ってはどうか？(住居が近く、農機具等の条件が整わないと難しいのでは)	C	毎年度実施している荒廃農地調査で、農地の所有者に対しては農業委員会の農地有効利用希望者の登録制度を案内しており、今後も農地の流動化に努めてまいります。
118	主な取組「耕作放棄地の予防対策」について、目標値の基準値5.7haですが、多い地域はどこですか？	D	耕作放棄地解消事業補助金の解消面積を数値として使用しており、対象地域は市内全域となっています。
119	高齢化が進む現状で次の世代での継承が難しい・・・家族構成(子供が女子)や小規模農家では若手が遠方に就職して地元には住んでいません。また、収入を考えると農家では経済的に生活不能です・・・いい考えを教えてください	B	担い手不足は本市でも重要な課題となっています。現在、農業者の作業を手伝う援農者の育成に取り組んでおり、将来的に作業支援を必要とする農業者と、援農者をマッチングしたいと考えています。JAでも農業支援隊が主に水稻の作業支援について取り組んでおり、市としてもJA等と連携して農業者を支援していきます。
120	・農道・用水水路の整備・維持管理 農道が狭隘して軽トラックすら走行不能。用排水路が昔のままで大雨が降る度にくずれてしう。(一時的にでも土留工事を実施していただきたい)	D	具体的な箇所等をご教示いただければ、職員が現地を確認し、その対応方法について検討していきます。
121	関連計画に「小田原市農業振興計画」とあるが、当地区(下大井)は荒廃地が年を増す毎に増加している状況です。今後としては、農業振興計画 第5章 小田原市の農業振興施策 基本方針2 次世代・・・ 施策1優先して利用する農地の検討 ②農地集積を積極的に実施して頂きたい。更には、小田原市の特産物として土地活用してはどうか。(生産者・JA(指導販売等)・小田原市(広報))・・・3者が手を携えて頑張れば小田原市の農業の発展に繋がるのではないのでしょうか。	C	農業振興計画の施策の1つとなっていますが、将来に渡り優先して利用していく農地を明らかにし、担い手に対する賃借による農地の流動化に努めます。また、需要が拡大傾向にある湘南ゴールドやレモン、キウイフルーツ等については、産地化に向けてJAや農業技術センターと連携し、高品質、高収量の栽培技術の研究や、農業者への研修を促進していきます。
122	小田原漁港だけでなく、石橋、江之浦、米神漁港の水揚げ量も目標値にしてはどうか？	D	石橋・米神・江之浦の市営3漁港については、漁業の利用頻度等を勘案し、江之浦漁港を優先に施設の機能強化を図ることとしています。なお、近年における石橋・米神漁港の水揚げは無く、江之浦漁港では刺し網、素潜り漁の少量の水揚げに留まり、大半が小田原漁港で水揚げされている実情から、市営3漁港の水揚げ量を目標値として設定することは適さないと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
123	平時の水上交通路としての復活だけでなく、防災の側面からも災害および大規模渋滞時の救援・救急活動のためにも船舶が出入りできるよう、海底の岩を除去したり、棧橋および突堤を修復し、米神港など、廃港や旧船着場の整備をしておくべき。現状、早川港以外に大型船が泊まれる港がない。次回、R135号や西湘BPが災害で通行止めになった際に、海からのアクセスができるようにする事。せめて海上自衛隊の輸送艇が石橋港や米神港などに接岸できるようにすべき。	C	既に災害時の海上輸送拠点港としての機能確保されている小田原漁港を拠点に、道路が寸断された場合の海上輸送ルート等について、関係機関とともに研究を進めていきます。
124	是非とも早川漁港で釣り大会をやってもらえると嬉しいです。例えば、漁港の船の出入り口を網で、塞いで漁港内を大きな釣り堀にする。そこに漁船で取った小田原の魚を放流。そうすれば、魚が逃げずに魚釣りが楽しめると思います。 受付は、市内の釣具屋さんで、参加資格は、市内の釣具屋さんのお客さん。アジのお祭りについて、小田原の海と魚に触れられて、家族で楽しめると思います。そんな企画があったら嬉しいです。過去にあったらゴメンなさい。	C	「釣り」をはじめとした体験型観光は、小田原漁港周辺の魅力創出のための貴重なコンテンツと考えていることから、今後、研究を進めていきます。
125	「北條五代を大河ドラマに」という誘致を行っていますが、懸念が2つあります。一つ目は、これは一時的なカンフル剤として機能する、一つの「目標」であり、母体となる街づくりが完成していない状態で実現しても、はずみ車は回りません。現段階では継続的な観光客誘致、知名度向上、人口増加には繋がりません。二つ目は、感覚で申し訳ないのですが、何か「ドラマ化の実現がゴール」のような運動(手段の目的化)になっている気がします。	D	大河ドラマの誘致は北条氏の魅力広く伝えるための手段と考えており、広域で地域の活性化を目的に活動しております。ドラマ化をきっかけとしてその効果を活かし活性化に取り組む考えです。
126	小田原城の周辺エリアをフリーWi-Fiとして、様々な情報が取れたり観光拠点のポイント獲得のイベントなどを行ったり、外国人向けの多言語での案内が容易にできるなど、世界が憧れる町にしてほしい。	B	観光施設でのフリーWi-Fiの導入をはじめ、観光案内板の多言語表記、多言語パンフレットの配布、翻訳機の導入や多言語対応観光アプリの提供など、外国人観光客にとって旅行しやすい環境を積極的に整えています。
127	私は30年小田原で暮らしています。子供の頃、台風や波が高いときに、波打ち際の波が他所より高いから海に近づくなと口酸っぱく言われました。調べると、波打ち際の波が高いのは小田原の海は深いからと。土砂をオーストラリアのクーランガッタ地域のようにパイプで常時運び入れ、多少波が高くなっても湘南地域のように遠浅のビーチを作れば、今の様に驚異的な波打ち際の波が起こりづらく、なおかつ安全性も高まるため海水浴もしやすくなるかと思えます。小田原の海に砂浜を醸成し、尚且つ観光地としての海の活用をすべき。	C	県が事業主体となり進めている早川海岸整備において、背後地の生命、財産を守ることはもちろん、漁業と共存しながら、市民の憩いの場となるような海岸の整備に向け、県に働きかけていきます。
128	東京、横浜など都市部、そして鎌倉、葉山、江ノ島など利便性の高い観光地での周遊と比較して、小田原での観光は自然環境資源の点で勝ると思われるが便利施設、飲食や購買、休憩やトイレの機会に乏しく、かといって全く自然なままの登山のような環境とも異なり、事前の準備や情報収集の度合いによっては不便な、あるいは目的が「歴史のある城下町」なのか「里山、海、川など豊かな自然」なのか明確でない、中途半端な観光地と評価されかねない。	B	本市には豊かな自然環境、歴史、文化、食が揃っており、それらを掛け合わせて来訪者に楽しんでいただきたいと考えています。また、それらを回遊しやすくするため、レンタサイクルや回遊バス事業など、二次交通の拡充を推進しています。
129	高松城「玉藻城」では、年に一度大学生の「お茶会」が開かれております。(今はコロナでお休みかも知れませんが)それを体感した時に、お城の使い方をこういうことに使わせてくれるとは「何と教育熱心な土地だろう。」と考えたことがありました。当然社会人になってからも、生かされてくる情緒的な体験だと思えます。この実体験がその後、お茶への興味にもつながって下されば・・・とも思っています。	B	小田原城址公園では年間を通じて様々なイベントを開催しており、平成25年には小田原城で茶会を開催したこともあります。小田原城が、若年層の記憶に残るような場所となるように今後も活用していきます。また、歴史的建造物である清閑亭などでも茶会を開催しています。
130	地域の特性である海と山との近接、具体的には箱根、特に湯本地区との近接性を生かすのであれば、夏休み期間に湯本(旅館組合巡回バス)御幸の浜親水施設(プール)間でシャトル運行などすれば夏休みの家族旅行客の新規需要を掘り起こすこともできるのではないかと、また途中の早川取水口か地球博物館あたりに親水施設があれば海、川、山とを連携させた体験を提供できるのではないかと考える。	C	ご意見については、今後のまちづくりを検討する上での参考とさせていただきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
131	小田原駅周辺や小田原城内、蒲鉾店などの経営する観光施設などでの利便性が高いが、小田原市推奨のウォーキングコースのほとんどは休憩や給水、トイレを快適に済ます機会がないものとなっている。行政の要請で経路にコンビニエンスストアなどを配置できるのであれば良いが、商業的には不可と思われる。したがって公設の休憩所を設置し、有料であっても快適なトイレ、持ち帰りの負担を解決できる有料ゴミ回収施設、売店や自販機、防犯通報・救急設備などを備えることが適当ではないかと考える。課金方法をは Suica や Pasma など電子マネーに限定すれば管理コストは抑えられると考える。ゴミ回収については観光客向けの有料ゴミ袋をコンビニエンスストアやお弁当店などで販売する方法でも良いと思う。ついでにゴミ拾いなどしてもらい、自分の出したものと一緒に、家に持ち帰らずに済み、正当な手続きで処分できることには価値があると思う。新大久保や鎌倉小町通りなどで食べ歩き後のポイ捨てが問題となっているのは広く知られている。また海洋プラスチック汚染も大きな問題となっている。それらに対する先進的な回答を模索することに意義がある。快適性、利便性に対する有料化を徹底し、かつその対価を原資に快適性、利便性の向上と違反行為の監視を行えば、良質な観光における行動が誘導され、観光地としての高い価値が担保されるのではないかと考える。	B	市で設定しているウォーキングコースは、小田原ならではの自然や歴史を生かしたものであり、施設や設備を設置する予定はありません。なお、民間施設と協力してトイレや休憩所を提供しており、一部には仮設トイレを設置して対応しています。
132	観光客向けのウォーキングコースは地域住民のための日常的なウォーキング、ジョギングコースとなりうる。そのためにも快適性、利便性の向上は求められていると考える。里山や河岸などの過度でない人流の増加は防犯や不法投棄防止など環境維持の効果も期待できる。	B	現在のウォーキングコースはその多くが自然環境を楽しんでいただけるものとなっており、地域住民の方も利用いただいています。
133	小田原駅から徒歩圏、小田原城、かまぼこ通りと隣接した「御幸の浜」はまた小田原漁港、箱根板橋へも徒歩圏であり、(総構えなどの山歩きの散策に対して)平坦な散策路の中継点となりうるポテンシャルの高い地域資産と考える。また小田原駅をスタートゴールとするルートだけでなく早川駅、箱根板橋駅などを利用して熱海、箱根方面へ向かうルート、行きは歩きでも帰りは電車で小田原駅へ戻るルートに集客できれば早川駅、箱根板橋駅周辺の活性化にもつながる。	B	案内所の整備やまち歩きガイド、観光回遊バス、レンタサイクルなどを通じて御幸の浜を含め、早川・箱根板橋方面の回遊促進に努めています。また、早川や板橋地域をスタート地点としたガイドツアーも行っています。
134	小田原湯本間や小田原真鶴間はバイパス的の道路開発の影響により「沿道の賑わい」が失われたように感じる。沿道の賑わいの再興は困難かもしれないが、ウォーキング客や鉄道利用客により途中駅の利用者が増えれば駅周辺に小規模商業施設の需要が生じるかもしれない。根府川駅からの眺望、長興山お参りなど鉄道を利用したのスポット観光もあまり健脚でない人向けに宣伝する価値がある。	B	案内所の整備やまち歩きガイド、観光回遊バス、レンタサイクルなどを通じて早川・箱根板橋方面の回遊促進を進めています。また、早川臨時観光案内所を開設するなど、回遊促進を行っています。
135	観光の観点からは箱根周遊券、箱根旅助けのような狭い枠にとらわれることなく御殿場線に囲まれたすべての地域を周遊できるような割安なフリーパスがあれば「葉山女子旅」的な人気を博すかもしれない。	B	鉄道事業者の協力が必要である中で、現在はフリーパスを使った周遊企画の予定はありませんが、誘客に向けたPRにおいて連携しています。
136	小田原の良さは、自然だと思います。すぐ海、すぐ山。しかしながら、海に行くのも、山に行くのも駐車場が少ないと思います。海や山の風景を眺めたいけど、車がとめられない。駐車場があれば、人が来る。人が来れば商売ができる。ぜひ、駐車場等のインフラ整備をお願いしたいと思います。	C	本市では公共交通機関を利用してもらい、街なかを含めた地域全体の回遊性の向上を目指しており、二次交通の拡充に努めています。
137	お濠について、数年前に TV 番組で水を抜いたが、雨天であり、放置期間も少ないため全く意味がなく、生物調査・盗難等の遺失物調査以外は、むしろ悪臭が発生しただけだったのではないだろうか。しかしながら掻い掘り自体は遺跡調査や水質改善の観点からも必要であると考えられるため、今度は市として、区画を分け段階的にしっかり行うべき。きちんと天日に晒した本来の掻い掘りを実施すれば、水質浄化もでき、入念に遺跡調査も行える。済んだ箇所から部分的に掘り下げ、地下タンク等も用いて、増水時にお堀で一時的に貯水できるような機能を持たせる。以前より幾分良くなったが、小田原駅東口お城通りおよび学橋前は大雨時に冠水する事がある。	C	掻い掘りについては、史跡整備に伴う遺構調査や管理のため、将来的には実施が必要であると認識しており、今後の検討課題としていきますが、貯水タンク等により掘に貯水機能を追加させることは、遺構保護の観点から難しいと考えています。大雨時には状況を確認し、必要に応じて対策を検討します。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
138	手漕ぎボート乗り場を2箇所作り、時間制で貸出を行い、どちらに返却しても良い事にすれば、遊興としてだけでなく、実用性を持たせて運営できる。例：藤棚側で借りて、幼稚園側で返す。	C	史跡であるため、手漕ぎボートの船着場の継続的な設置は難しく、継続的に運営していくことには課題があります。
139	お濠の水質が良くなればホタルの再来も期待でき、飼育も可能となる。三の丸小の横を流れる水路や菖蒲池などで飼育すれば、小田原城の周辺に定着する個体も出てくると思われ、それだけで新たな観光要素が生まれる。※城内小時代に数年間、お濠端幼稚園側の崖でホタルを飼育していた。※2010年ころ、本町の実家の壁にホタルがいた。	C	蛍の飼育については、管理上の課題も多く難しいと考えていますが、堀を活用した様々な取組ができるよう、堀の管理を適切に行っていきます。
140	小田原市を首都圏に位置する最高の歴史都市にする。市長が掲げる「世界が憧れるまち」にするためにはヨーロッパからも評価される本物の文化財の整備とその運用を活発にすることだと思えます。歴史的な文脈の上にスーパーシティ構想のようなデジタル技術の融合政策を施すことで、世界が憧れる、かっこいい街になるとおもいます。	C	市の業務の様々な分野でデジタル技術が有効に活用できるよう取組を進めていきます。いただいたご意見を今後の文化財の整備を進める上で、参考とさせていただきます。
141	詳細施策3 歴史まちづくりの推進で、板橋地区の山月の事が、触れられていませんでしたが、山月は宿泊施設として利用されていたことから、宿泊を希望する海外観光客や歴史に関心を持って小田原市を観光に訪れるグループなどの方たちに最適ではないかと思えます。不動産会社の所有とのことですが、今後の利用を考慮されてみてはどうでしょうか。	C	山月(旧共寿亭)は国の登録有形文化財として登録されており、また、小田原市ゆかりの優れた建造物として認定していることから、所有者の意向も尊重しながら、必要に応じた支援を検討していきます。
142	(仮称)文化によるまちづくり条例の基本計画とは、24ページの(仮称)文化によるまちづくり基本計画とは別のものですか？	D	「小田原市文化によるまちづくり条例」に基づき定める計画が「(仮称)文化によるまちづくり基本計画」であり、行政案24ページの「(仮称)文化によるまちづくり基本計画」と56ページの「(仮称)文化によるまちづくり条例の基本計画」は同一の計画を示しています。この計画は令和4年3月に「小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画」として策定しました。
143	神奈川県の方針では県西地域は未病地域ですが、小田原が本格的な歴史都市に発展すれば、鎌倉から湘南の庭園文化圏を経て小田原につながる歴史都市回廊が出来上がり、物流・生産を中心とした圏央道地域と差別化した発展、つまり、人流が期待できます。世界を見たときに小田原市の規模では小さすぎます。ぜひ広域を視野に入れた小田原の未来像を描いてほしいと思います。	B	「小田原市文化によるまちづくり条例」では、基本理念として、文化の振興に当たっては、観光、国際交流、福祉、教育、産業等との連携を図るとしています。この連携は市内に限らず広域的な連携も必要となるため、歴史的な文化資産についても活用しながら文化振興を進めます。
144	今やDXは想像以上の速さで進行しています。国ではデジタル庁が発足しました。年齢を問わず市民がデジタル・リテラシーを身に付けないと生活に不自由な時代になって来た感じです。市は「誰一人取り残さない」デジタル社会の実現を目指すとしていますが、市立図書館にデジタル図書館システムの導入を進めるべきであると考えます。	A	図書館では、来年度以降に電子書籍貸出サービスの導入や図書館所蔵の地域資料等のデジタル環境での提供等を通して、市民の皆様の情報取得に関する利便性の向上を図っていきたいと考えています。
145	小田原へ来て初めて市立図書館に行ったときに星崎記念館と表示され、中に入ると星崎定五郎の胸像が置いてあったのでその由来を市のHPで読みました。星崎氏が「子供の勉強のための施設をつくってほしい」と言って市に寄付されたのがきっかけでこの施設が出来たと知り、感心すると共に見習いたいものだと思いました。図書館の再編に伴い星崎記念館は閉鎖され、星崎氏の胸像はそのまま残されています。昨年開業した東口図書館には1/3サイズのミニチュア胸像が目立たない所に置かれています。星崎氏の尊い遺業を継承するために、胸像は中央図書館に移設し、東口図書館ではポスターの形ででも工夫して、多くの市民に星崎氏の事績を知らしめるべきだと思います。	B	星崎氏の胸像は令和3年8月末に中央図書館に移設し、星崎氏の事績をパネルで紹介しています。小田原駅東口図書館ではミニチュア像を設置して事績の紹介を行っています。
146	御幸の浜プールを親水施設として建替え、改装するには公費負担を抑えた民間の資金、アイデアを活用したプロポーザルを募集することが適当と考える。近隣の事例として大磯の照が崎プール、大磯ロングビーチの集客・利用状況も参考とできるかもしれない。	C	御幸の浜プールを含むスポーツ施設全体のあり方については、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
147	御幸の浜プール、特に50メートル競泳プールは海のある小田原の象徴として継続して欲しい。そのためには民間との連携、通年施設化、多目的施設化が合理的と考える。	C	御幸の浜プールを含むスポーツ施設全体のあり方については、第6次総合計画の重点施策に位置付けて、検討していきます。
148	二酸化炭素排出量はどのように算出するのですか？	D	全国のエネルギー使用量から算出した産業部門や家庭部門などの部門別の炭素排出量を、各市区町村の活動量(製造品出荷額や世帯数など)で按分する方法で環境省が算出した、市区町村別の二酸化炭素排出量推計値を用います。
149	再生可能エネルギー導入量の千kwとは毎時の発電量のことでですか？	D	毎時の発電量ではなく、市内に導入される再生可能エネルギー設備全体の発電容量です。
150	森里川海の連環を考える上で、小田原の地下水脈の研究が待たれるところです。 表層を流れる川の水をはるかに上回る量の真水が、我々の眼に見えない地下から海に注がれています。海岸に近い井戸水が塩辛いのも、地下水の圧力が海の圧力より高いからです。 膨大な地下水が、どのように流れているのか、学術的に解明されきていませんが、今後、小田原の自然環境のあり方を考える上で、必要になる知見です。都市デザインにおいても、地下水のことを把握した上での開発を考えていくべきとも。	C	「小田原市豊かな地下水を守る条例」制定時に地下水の流動調査等を実施し、条例に基づき、各事業場からの地下水揚水量報告のほか、地下水位や水質調査等を継続的に実施することで、地下水全体の把握に努めています。いただいたご意見などを参考とし、今後も豊かな地下水の保全に努めていきます。
151	森林整備面積とは維持管理していく森林の面積のことですか？	D	原則として、森林の維持管理は森林の土地所有者が行うものですが、市や森林組合では、森林の土地所有者と協定や契約を締結したうえで、森林の土地所有者に代わって森林整備(間伐・枝打など)を行う取組を進めています。ここで示している目標値は、上記で示した森林整備の面積を示したもので、維持管理していく面積とは異なります。
152	究極的には全体的な土地流動化と地区計画により碁盤の目状の住宅地を創造できれば地域の価値が向上することとなる。その場合、旧来の法令にとらわれず、市街地、住宅地として価値向上を目指し、最低限の幅員は5mを基準とすべきと考える。	C	相当規模のまちづくりについては、土地区画整理事業や市街地再開発事業等によって基盤整備が行われる、若しくは行われた土地の区域については、併せて地区計画を決定することにより、建築物の高さ、壁面の位置の制限、道路幅員などを定め、将来に亘り住環境を維持・保全していくことが一例として考えられます。 地域特性を生かした街区単位でのきめ細かなまちづくりについては、都市計画提案による地区計画制度を活用したまちづくりが考えられます。
153	小田原駅周辺は高層建築物を集積し、郊外は広い敷地に低層住宅のメリハリのある都市計画がいいと思います。地図に線引きされた既存・既成の計画でなく、地形・地勢に合わせ、地区計画などを利用した都市計画を進めたいと思います。	C	本市では、都市計画法に基づき、拠点となる駅周辺の高度利用をはじめ、郊外部の低層住宅地に至るまで、それぞれの目的に応じた適正な土地利用を誘導するため、建蔽率・容積率を定める用途地域等を都市計画で決定し、秩序ある都市環境の維持・保全に努めております。また、地域特性を生かした街区単位でのきめ細かなまちづくりについては、都市計画提案による地区計画制度を活用したまちづくりが考えられます。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
154	<p>人口増加のため、「市街化調整区域への規制緩和」 小田原の魅力は都心へのアクセスだけではなく、海・川・山など自然が豊かなところも魅力のひとつです。小田原の郊外に住居を求め方も多いと不動産業者の方をはじめ多方面の業者さんから耳にします。いわゆる都心にアクセスがよい戸建派の需要が多いと各メディアでも扱っています。人口プラス1万人には今ある市街化区域だけでは受け皿は足りません。そうなるとやはり市街化調整区域に手を付けざるをえません。やみくもに解除するのではなく近隣市町村と同じような既存宅地制度に戻すだけでかなりの住宅供給面積は確保できるはずですが。</p>	C	<p>人口減少・高齢化などの社会情勢への対応は、本市のまちづくりにおける重要な課題です。市街化調整区域における既存集落の維持、営農環境の保全のための現行制度の適正な運用とともに、社会情勢等を勘案し適宜制度改善に努めます。</p>
155	<p>守屋市長の掲げる「世界が憧れる・・・」 歴史ある城下町、相模湾、伊豆、湘南、箱根、交通網の拠点となる好条件の中、住みたい街 73 位は行政指導による町づくりの下手さに象徴されています。 高さ規制、美しい街(景観規制、色、看板等、アーバンデザインセンターによる)食べ物が美味しい、街歩き、買い物を楽しむ魅力ある町、インフラが安い・・・etc. 守屋市長からもお話頂いた 50 年 100 年先も変わる事の無い小田原の街、歴史を作る為の法規制の着手</p>	C	<p>これまでも、本市の特性を生かした快適で魅力ある都市整備を進めてきましたが、引き続き、立地適正化計画や都市計画マスタープラン、景観計画といった各計画に基づく施策の推進や、国からの交付金を活用しながら、地域経済の活力につながるまちづくりを推進していきます。</p>
156	<p>UMECO によって、お城通りから天守閣が見えなくなった。JR 改札口のパノラマウインドーから見えていた天守閣がミナカによって縦真っ二つに割られてしまった。駅前周辺に建設されるビルに対する規制は高さ制限が主で、小田原の象徴である天守閣が、そのビルによって人の目線から見えなくなることは、設計段階で確認できたはず。しかし、法的な基準がないので、ビューの確保はほとんど無視されている。これからの都市デザインにおける景観規制には、高さ規制、面積規制、色彩規制だけではなく、「ビュー」という概念を重視していかなければならないと思う。市民の心のよりどころとなるもの、市のシンボルであるものは、そのビューを遮らないように開発案件が管理される仕組みをつくってほしい。</p>	B	<p>天守閣への眺望については、ミナカ小田原など大規模な建築物の設計段階から協議し、小田原市景観計画に位置付けた小田原駅ペDESTリアンデッキ上の視点場からの眺望確保に努めています。</p>
157	<p>城と駅前の高度地区の見直しについて、現行の高度地区の規制よりも、さらにもっと低い規制を、行政に張って頂くことを、要望します。小田原市の都市計画を進める第一歩は、駅前と城地区の高さ規制の見直し(現行より低くする)、そして再構築にあります。現行の高度地区のままであれば、たとえ今後、どれほど城の整備を進めたところで、城下町としてあるべき景観と魅力は、大幅に損なわれてゆきます。守屋市長には、ご専門である都市計画のお力を、ここ地元小田原で十分に発揮されることを望んでおります。今こそ早急に、現在の高さ条例の見直しに取り組んで頂きますよう、要望し、お願い申し上げます。</p>	C	<p>建築物の最高高さを制限する高度地区については、増加傾向にあった中高層建築物の立地による周辺環境や景観の悪化を懸念する多数の意見が寄せられたこと、また、高度利用を図りつつ秩序ある都市環境の維持・保全を図るべきとの意見も踏まえ、市民や関係団体等との意見交換や説明会等を重ねた上、都市計画決定しました。しかしながら、緩和規定による高さの限度を制限して欲しいとの声があがり、小田原城天守閣の標高未満とする高さの制限を加えたものです。</p>
158	<p>城と駅前における高度地区(高さ規制)の見直しについて、城と駅前における良好な城址景観および都市景観を創出するには、現行の高度地区(高さ規制)は同じ観光都市である京都や鎌倉と比べ余りに高過ぎる。今よりも高さを抑える必要がある。小田原市では長年にわたり小田原城の整備を進めており、年々お城の魅力は増している。しかし、小田原城の魅力がいくら増しても、現行の高度地区のままでは林立する高層建築によりその魅力は大きく損なわれてしまうこととなる。小田原城は先人から引き継いだ「日本におけるトップクラスの歴史遺産」。私たちは良好な状態で後世に引き渡す義務がある。お城の周りを高層ビルだらけにしてはいけない。「世界が憧れるまち」を形作っていくためにも、志ある市民と有識者をお互いに交え、速やかに高度地区の見直しに着手することを強く要望する。</p>	C	<p>建築物の最高高さを制限する高度地区については、増加傾向にあった中高層建築物の立地による周辺環境や景観の悪化を懸念する多数の意見が寄せられたこと、また、高度利用を図りつつ秩序ある都市環境の維持・保全を図るべきとの意見も踏まえ、市民や関係団体等との意見交換や説明会等を重ねた上、都市計画決定しました。しかしながら、緩和規定による高さの限度を制限して欲しいとの声があがり、小田原城天守閣の標高未満とする高さの制限を加えたものです。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
159	<p>今後の小田原の街づくりについて、建物の高さ規制の再確認が必要だと思えます。</p> <p>深い歴史都市小田原は、京都や鎌倉と同じく観光都市であり、京都、鎌倉はしっかり高さ規制が設けられ、行政主導で街が守られています。先日のタウンニュースで看板規制などは掲載されておりましたが、市としての建物の高さ規制の再確認が必要です。一度失われてしまった街は、この先 100 年以上は変わる事はなく、50 年後 100 年後を想像し是非見直して頂きたく思えます。守屋市長が掲げる『世界が憧れる小田原』を実現する第一歩として、ソフト面の目標は勿論、ハード面の目標として、街づくりにも力を入れて頂けますよう宜しくお願いいたします。</p>	C	<p>建築物の最高高さを制限する高度地区については、増加傾向にあった中高層建築物の立地による周辺環境や景観の悪化を懸念する多数の意見が寄せられたこと、また、高度利用を図りつつ秩序ある都市環境の維持・保全を図るべきとの意見も踏まえ、市民や関係団体等との意見交換や説明会等を重ねた上、都市計画決定しました。しかしながら、緩和規定による高さの限度を制限して欲しいとの声があがり、小田原城天守閣の標高未満とする高さの制限を加えたものです。</p>
160	<p>住宅ストックとは小田原市営住宅ストック総合活用計画に定める住宅ストックのことですか？</p>	D	<p>ここでいう「住宅ストック」とは、空き家をはじめ、中古物件として不動産流通にあるものを指します。移住等を希望する人(需要)に比して、移住等希望者が望む住宅(供給)が少ないことを課題として捉え、特に遊休不動産となっている住宅ストックの市場流通を促進していきます。小田原市営住宅ストック総合活用計画は、市営住宅の整備・管理運営方針を定めた計画です。</p>
161	<p>住宅、宅地の流動化を促すためには固定資産税通知と連動させて所有者、名義人に対して資産利用状況・活用意思に関するアンケートを大規模に、あるいは地域網羅的に実施し、その結果を受けて都市計画につなげる形の、公的な誘導による相談窓口の設置や検討集会の開催などの施策を打つことが適当と考える。特に小田原駅周辺(半径 2 キロ程度)については、栄町、本町地区を中心に集合住宅開発が民間によって進んでいる反面、戸建て住宅適地で一種低層住居専用であってしかるべき箱根口以西海側や城山、荻窪においては流動性がほぼ枯渇しており、かつ不利な接道条件によって良質な住居や宅地が供給されていないように思われる。これらの地域では地区計画を促すような公的なサポートがあっても良いと考える。</p> <p>幸か不幸か小田原では大手不動産開発業者の活動が盛んでないため、地元宅建業者や信金などでいくつかのコンソーシアムを形成すれば、それらに対し公的誘導による相談や検討の成果をいかした「地上げ」的業務を募集して委託することもできるのではないだろうか。つるおかランド・バンク事業などが参考となるかもしれない。</p>	C	<p>ご指摘のとおり、特に遊休不動産となっている住宅の流動化を促すには、固定資産税通知との連動が大変有効な手段と考えます。このことから、施策に応じて、固定資産税通知等を活用していきます。</p>
162	<p>三浦半島はほぼ京急独占なのに対し富士山周囲は私鉄ばかりか JR までけん制しあう状況にあるのは地域にとっての不幸以外の何物でもないと思う。少なくとも共通して使える電子乗車券の導入を行政として促すべきと考える。日常的な制約であるばかりでなく、緊急に迂回して移動することが必要な場合の重大なボトルネックともなりうる。</p>	B	<p>交通系 IC カードの跨り利用について、鉄道事業者からは「技術的課題の解決等が必要で早急な対応は困難」との回答がありましたが、引き続き、要望していきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
163	<p>早川港から一夜城までロープウェイを。観光地同士を結ぶ移動手段として、利便性もさることながら、その乗車行為・展望自体が観光となり、パーク&ライド制度を併用すれば、さらに国道135号など周辺エリアの慢性的渋滞の解消・緩和にも貢献できる。また、「伊豆湘南道路」の実現により、利用者数はさらに安定的に確保できるため、料金設定にも自由度が生まれ採算性も高い。このエリアの観光地間を移動するマイカーも減らせるため、今まではトコだけだった観光客が車を停めて一夜城にも訪問可能となる。</p> <p>(補足)極端な例ですが、群馬の家族が山梨に旅行したとします。帰りに地球博物館に訪問し、展示物の影響もあって、海を見たことのない子ども達が、「海を見たい!」と言い出しました。ところが現状では、ここから大渋滞するR135や小田原漁港周辺に行く事は、各施設の営業時間外である真夜中と早朝以外は極めて困難です。せいぜい、渋滞に遭いながらR134西湘バイパスから反対車線側の海が見えたら良いかな?といった感じでしょう。もし、提案する索道があれば、地球博物館の後に車で一夜城まで足を伸ばし、ロープウェイで眼下に広がる海を見ながら漁港に降りれたらどうですか?子ども達のキラキラ光る目が想像できると思います。</p>	C	<p>ロープウェイは莫大な整備費が見込まれる上、既存のバス路線撤退を誘発する可能性があるため、実現は難しいと考えていますが、今後も二次交通の充実を検討する中で、先進事例の情報収集に努めます。</p>
164	<p>陸上競技場、いこいの森・わんぱくらんど、フラワーガーデン・すわのはら公園への交通手段の整備。丘陵地であるためロープウェイ等であれば景観も楽しめる上に、森林を切り拓いて道路を新設するより経済的で、環境への悪影響も少ない。小田原駅から競技場、いこいの森、フラワーガーデンを結び、大雄山線の飯田岡駅などに接続できれば尚良い。競技場への連絡だけでも、慰霊塔小峰公園や小田原城総構えの最上部である御鐘台大堀切へのアクセスも上がる。</p>	C	<p>既存バス路線により一定の交通手段が確保されています。ロープウェイは莫大な整備費が見込まれることから、現時点では困難と考えております。</p>
165	<p>『市立病院への交通手段として、頻繁に氾濫する山王川・久野川を深くし、水路として活用する。駅から遠い、万年や山王地区、町田方面から市役所・市立病院へのアクセスが向上し、既存の兔河原バス基地に接続すれば交通手段の複合化になる。</p>	C	<p>市役所、市立病院へのアクセスについては、公共交通である路線バスの利便性向上及び利用促進に、引き続き取り組んでまいります。</p>
166	<p>小田急線足柄駅の西側に改札口または連絡通路と、送迎用駐車スペースを設置し、同線沿線住民の小田原市立病院への通院利便を高めるべき。</p>	C	<p>現時点では市として駅の整備は予定しておりません。市立病院へのアクセスについては、公共交通である路線バスの利便性向上及び利用促進に向けて、引き続き取り組んでまいります。なお、足柄駅の西口については、複数の軌道敷がある関係で、西口改札の開設が困難であるとの見解が鉄道事業者から示されています。</p>
167	<p>小田急線足柄駅周辺の列車置場の沿道は、犬のフンが散乱しているだけで、全く無駄なスペースになっている。これなら線路が残っている廃線跡の方が趣や話題性があった。緑の小径を利用した効率の良い連絡通路があると良い。</p>	C	<p>当路線は、道路整備計画の位置付けがあるものの、整備の優先順位を踏まえ、事業化の見通しが立たないことから、歩行者等の通行に考慮し、暫定的な整備を行ったものです。今後については、いただいたご意見などを参考に、適切な維持管理に努めてまいります。</p>
168	<p>栢山～蛸田または足柄間を高架化・地下化してもらおうよう、小田急電鉄に打診・相談すべき。</p> <p>栢山駅交差点の慢性的渋滞も問題であり、さらに、足柄駅～小田原駅間においても、列車が踏み切りを塞いだ状態で待機することが頻発している。朝夕は自家用車だけでなく、歩行者や自転車、バスなども交通渋滞に巻き込まれている。ここは大雄山線とも並行している線路・踏み切りに挟まれたエリアであり、早急に解決を図るべき事案。この早期解決には、地下化・高架化以外に方法はないと思われる。</p>	C	<p>連続高架化・地下化は莫大な事業費がかかる上、その大部分を地方公共団体が負担しなければならないため、鉄道、バスの利用促進に引き続き取り組んでまいります。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
169	<p>上府中公園・小田原球場と鉄道駅と接続。 大きな大会やイベントがあると、子供を連れて遊びに行ってもその関係者の車で止められない事が何度かあった。御殿場線からの接続がもっと容易であれば、カミイチなどでお酒を楽しむ事もでき、マイカー利用者はもう少し減るのではないだろうか。高架の歩道があるだけでもかなり便利だが、球場～下曽我駅～(丘陵地帯)～大井方面(未病センター等)や二宮方面をロープウェイ等で繋げば、足柄平野全体の活性化に繋がる。梅まつりの時の交通渋滞も酷い。細街路に入り込んで動けなくなる観光客の車も目立つ。つまり集客力はあるのに、キャパがない。</p>	C	<p>既存バス路線(小田原駅～新松田駅)により一定の交通手段は確保されております。ロープウェイは莫大な整備費が見込まれることから、現時点では困難と考えております。</p>
170	<p>最近ではLRTが話題を呼んでいるが、路線バスやコミュニティバスも含め、陸上路面交通はどうしても渋滞が発生し、場合によっては悪化することさえある。さらに、あるバス会社では路線を減らすとの話もある。マイカーや免許がない世帯の利便向上、高齢者の免許返納促進の面からも新たな交通手段は必要である。 そこでモノレールやロープウェイ、水路であれば、用地取得や設備費用は鉄道に比べて節約でき、話題性や港町・城下町として観光要素もあるうえ、手段の多様化は災害やテロ・事故等のリスクの分散にも繋がる。 また、海岸線は地理的要因もあり、どうしても慢性的な渋滞が発生するが、単に拡幅・複線化で解消しない問題もある。R135等を例に見て解るように高潮・津波、土砂崩れ等が発生すれば寸断され、もし並走路があっても、被災道路の交通量を補う能力はなく、渋滞が渋滞を招く悪循環となるため、代替手段としても<水路の活用>は待ったなしで行われるべき。</p>	C	<p>市民の移動のため、公共交通である鉄道、路線バスの利便性向上及び利用促進に、引き続き取り組んでまいります。 また、必要に応じて地域と新たな移動手段の導入について検討してまいります。</p>
171	<p>路線バスの問題について、行政案の「道路・交通」の項目では、詳細施策として「公共交通ネットワークの構築」とあり、「誰もが快適に移動できる公共交通環境の改善」を進めるとしています。しかし、建設経済常任委員会の資料では、路線バスの退出意向の申出(3路線)について、「小田原駅～栢山駅」「小田原駅～真鶴駅～湯河原駅」の2路線については「退出もやむを得ない」としています。行政案に書かれていることとの違いに驚きます。利用している住民の意向調査をするなどして、何らかの方法で交通手段を検討すべきではないかと思えます。</p>	C	<p>小田原駅～栢山駅の路線は代替交通手段があり、小田原駅～湯河原駅の路線は1日1便で利用者がごく少数のため、調査の予定はありません。必要に応じて地域と新たな移動手段を検討していきます。</p>
172	<p>必要以上のハードは初期費用だけではなく維持費が発生するため、市の財政圧迫にもつながりかねません。例えば、74号線の警察署前の通りですが、一時的に工事がありました。そもそも工事自体の必要性も実施前に吟味すべきですが、工事の影響で2021年7月8月上旬に、74号線の城山幼稚園前から警察署前あたりまで、それまで発生していなかった渋滞が毎日発生しておりました。原因は信号のタイミングが変わった事のようなものでした。8月中旬には改善されて、渋滞は解消されました。今後もイオンモールが出来て交通量が多くなる事が見込まれます。信号のタイミングをAIで管理するなど含めて最適化すれば、インフラ整備は最小限に抑えられると考えます。逆にインフラ整備されても、信号のタイミング一つで渋滞が発生しますので、そのバランスや費用対効果はしっかりと確認して頂きたいです。</p>	D	<p>信号は、交通管理者である神奈川県警察が所管しているため、必要に応じて、改善について市からも要請してまいります。</p>
173	<p>湘南伊豆道路については観光周遊道路の観点は2次的、3次的なものとして位置づけ、第1義的には地域生活道路、防災道路として明確に位置付けるべきと考える。</p>	C	<p>伊豆湘南道路については、神奈川県と静岡県の県境地域の脆弱な道路環境を開拓する新たな東西軸となる構想路線であり、高い防災効果を発揮するとともに、両地域の交流促進として、観光、産業、物流等々、様々な効果についても期待が寄せられています。本市としては、構想ルート上の沿線市町と連携を図り、規格の高い道路を国に要請するなど、実現に向けて取り組んでいます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
174	<p>小田原アリーナ～富水駅・螢田駅が遠い！＋螢田駅沿道が危険。全国大会が行われるにもかかわらず、駅から遠い。重い・多い荷物を持って移動する選手や関係者が多く、炎天下や大雨の中を歩いていることもあり、試合や練習前に無駄な負担をさせている。これではパフォーマンスも発揮できないし、間接的にマイカー来館を促しているのと同じ。そればかりか、螢田駅の沿道は歩道部が非常に狭く交通量が多いので市内でも最も危険な道路。</p> <p>そこで、ヤオマサ・TSUTAYA 前から大橋までの道路(歩道部や中央分離帯が広い)に、屋根付き高架道を作り、動く歩道や自転車道、モノレールなどを作ってはどうか？交通量や天候に左右されることなく、テニスコートやアリーナ駐車場へ横断でき、大雨や酒匂川増水時などに避難場所・避難路としても使用できる。(現状では洪水や越水時に、付近の住民が東富水小まで避難するのは困難)(2018年8月6日、大雨で冠水)</p>	D	<p>螢田駅前の県道の狭小な歩道については、県や地元関係者と拡幅の可能性を調整してまいります。</p> <p>また富士見大橋からヤオマサまでの都市計画道路穴部国府津線は、現在、県が穴部方面への延伸事業を進めており、これに伴い、ご指摘の広い中央分離帯は、県道720号(怒田開成小田原)と、小田急線を跨ぐ高架道路を建設するための用地となります。</p>
175	<p>早川付近の渋滞緩和のため、早急に西湘バイパス早川出口を右折可能にすべき。ここが右折できないため、混雑する港の周辺に、行きたくない車(小田原市街地や山北、箱根方面に行きたい車)までもが流入する。そしてターンパイク等に繋がる早川交差点も無意味な右折禁止(警察でも理由が分からないとの事)であるため、その手前の見通しの悪い坂のカーブでUターンしたり、住宅地で切り返す車がいるため、事故も誘発する。</p> <p>これらは本当に無駄な渋滞を発生させている。この2箇所の右折禁止は早急に排除すべき。</p> <p>なお、警察ではICの右折禁止は「国道への接続は基本的に二車線であるべき」との理由を挙げているが、物理的にも左折車と右折車が並ぶだけのスペースは充分にあり、そもそも信号があるので合流先の交通は赤で停止しており、何ら危険性はない。</p> <p>私はこの地域の住民であるが、休日はR1から旧早川橋への道路(御厩戸小路)やR135が渋滞し、時間帯によっては家に帰れない事がある。これだけの観光客が来てるのにさげすみにもったいないし、渋滞や警察の取り締まりで不快な思いをさせるうえに、住民まで迷惑をしている。</p>	D	<p>2箇所の右折禁止については、デメリットも伴うため、交通状況に応じ、地先の自治会連合会や漁業関係者と協議しながら交通状況に応じて検討していきます。</p>
176	<p>小田原城から3km離れた風祭駅近くに西湘BP(箱根新道入口)の「箱根口IC」があるが、「藤棚の箱根口」と「風祭の箱根口」を混同される事がある。これに関して2017年ごろに、「IC名を改称すべきである。同ICの名称は、この交差点名で、同名駅も近く、日本で唯一の地名であることから”風祭”に変更すべき。それができないなら小田原城側を”藤棚入口”に変更すべき」との提案および経緯説明を求め、意見を国土交通省、ネクスコ中日本、小田原市建設政策課にしており、各回答は下記であった。</p> <p>国交省:「ネクスコ(当時JH)の申請を受理」 ネクスコ:「IC開通時に地元の自治体等の合意が図られたうえで名称決定」</p> <p>市建設課:「当時の経緯の記録がないが、小田原の人間としてここが箱根口と言う名称は不自然で、全くご指摘の通り。こちらとしても変更したい。名称も『風祭』が良いと思う。藤棚の方の『箱根口』は変更できない。変えるならICの方。しかし自治体の都合での変更は、自治体が費用を持つことになる。調査したところ、内訳は不明だが、その金額は長野県内の例で2億円。残念ながら対応は不可能。」</p> <p>このような回答であるが、本件は”小田原市の都合”などではなく、明らかに一部の人間の感覚の違いにより、多くの人間が困惑している状態であり、市だけでなく国や県にも提言すべき事案であると考え。もしくはクラウドファンディングや、鈴廣かまぼこさんを始めた市内外の企業にご寄付をお願いすることはできないだろうか？私も藤棚で観光客に二度ほど説明した事があり、また子供の頃に父と相模原の母方の伯父との会話で「255からお城の方の箱根口です、風祭まで行かないで…」と説明していたのを今でも覚えている。皮肉なことに新型コロナの影響で、東京オリンピックの外国人を含めた観光客の増大、同ICの利用による混乱が起きなかったが、不幸中の幸いと捉え、今の内に解決していく必要がある。</p>	D	<p>伊豆湘南道路の整備に向けた機運が高まっており、仮に小田原厚木道路等とアクセスすることになれば、周辺のインター等の名称変更などを訴える機会となるので、機を逃さず、しっかりと引き継いでいきます。</p>

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
177	都市整備としては、車道・歩道・自転車道などの道路整備が遅れていると思います。 道路は街の社会資本基盤としてとても重要です。駅前メイン通りや幹線道路は、広い車道・広い歩道・自転車道の整備が必要だと思います。	C	道路拡幅には用地取得が必要となるため、いただいたご意見も踏まえ、計画的に幹線道路の整備を実施していきます。
178	小田原駅周辺については歴史のある市街地であり、自動車の通行を前提とした快適な道路は一部幹線に限られている。狭い道路の改善としては以下の2つの策が検討できると思う。第1に過去においても、また将来的に変更の行われない寺社所有地に対して道路拡幅やすれ違い待機所の設置を促すこと。これについては自社側から積極的に行動する誘因は乏しいと思われるのでセットバックなど境界構築物更新費用の補助や道路のため提供された土地の代替地への交換などに予算措置が必要となろう。第2は一方通行の活用となる。狭いであっても交通量が少なければ地理をよく知る地元住民にとってそれほど不便を感じないところ、訪問者や新住民にとっては運転しづらい、貧しいインフラに感じられてしまう。一方通行に、より迂回であっても対向車を気にしなくても済むようになればより良質な道路環境と認識されると思う。実際、都市部では一方通行が積極的に導入されているように思う。	C	狭い道路の整備に係る対応策の一つとして、参考とさせていただきます。
179	下水道の問題について、建設経済常任委員会に出された資料では、「公民連携による下水道管路の維持管理手法について検討を行っている」とあり、今年4月には「公募による事業者説明会及びアンケート形式によるサウンディング調査を実施し、事業への参画の意向などを確認した」とあります。水道の民営化については、各国ですでに失敗し、公営に戻すところもあるくらいです。今回の取組が水道の民営化につながらないようにすべきだと思います。	D	上下水道事業はそれぞれ別個の事業であり、下水道管路の維持管理における公民連携手法の導入が、水道事業の民営化につながることはありません。
180	行財政改革による財政効果額の目標はいくらですか？金額がわからないと目標値の100%について評価できません。	D	行財政改革については、別途個別の計画を策定しており、現計画(計画期間平成29～令和4年度)では、目標額を14.5億円としています。令和5年度以降の目標額は今後設定していくため、現時点では記載していません。
181	ハード面を充実させる前に、既存のサービスやハードを最大限活用できていない、と言う可能性から探して下さい。そのためにデジタルを活用できる部分は多くあると考えます。	C	市の業務の様々な分野でデジタル技術が有効に活用できるよう取り組んでいきます。
182	競輪場の活用(あるいは廃止)については様々な規則や会計上の問題などあると思うが、より理解された、開かれた施設とするためスポーツイベントへの利用なども検討すべきと考える。ギャンブル機能については設備も顧客もオンラインや場外へ移行することが比較的容易と思われるので、スポーツとして観戦する施設を主体とし、また、例えばスケートボード場を併設するなど他のスポーツの要素も加えれば迷惑施設からの脱却も図れるのではないかと。また周辺の駐車場の稼働状況がそれほど高くないのであれば、例えば城山陸上競技場と連携した雨天トレーニング施設としたり、ウォーキングコース上の休憩施設としたりすることが検討できるのではないかと。	C	競輪場については、非開催日に自転車競技連盟等自転車関係団体にバンクの貸出しを行っています。現時点では自転車競技以外のスポーツ施設の整備は考えていません。現在「サイクルフェスティバル」として競輪場開放イベントを行っており、その他の多目的活用については、今後も検討していきます。
183	寄付文化の普及を。今の小田原城天守閣を建設するときには市民から寄付を集め、瓦にその名を記したと聞いています。 コロナ禍で市の財政事情の悪化は避けられないでしょうが、市民に広く訴えかけ「世界が憧れるまち“小田原”」のために寄付を考える風土を形成すべきだと思います。	B	令和2年度に新型コロナウイルス感染症緊急対策基金を創設し、市内外から多額の寄附をいただきました。また、令和3年度からふるさと納税のポータルサイトを3サイトから5サイトに増やし、大きな災害が起きた際の災害支援を含めた寄附枠を拡充しています。
184	緊急的な維持修繕工事が必要な市有建築物は2%残すことなくすぐにでも直したほうがいいのでは？	C	各種点検で建築物の状態を把握し、修繕・更新の時期を見極めていますが、老朽化した建築物が多いことから、毎年一定数の故障等が発生します。現状では、緊急の維持修繕工事をなくすことは難しいと考えています。

No.	ご意見	反映区分	ご意見に対する考え方
185	女性職員に限らず全職員の昇任希望率を目標値とすべき。	C	女性職員の昇任希望率は、本市が策定した「特定事業主行動計画」に掲げる目標の1つとして、すべての職員が働きやすい職場環境の実現を目指すものであることから、指標として適切であると考えています。
186	国鉄民営化以前は県境をまたいだ沼津、三島、熱海と小田原との商業、教育的な生活圏の重なりがより大きかったように思う。県境も、分割されたJR各社も地理的、歴史的に絶対的な合理性を持つものではないので検討の価値があると考えます。	B	広域連携の推進については、県西部地域のみならず、ご意見にあります静岡県東部地域や山梨県東部地域の自治体とも県境を越えて連携し、圏域内の振興、活性化を図っており、今後も課題解決に取り組んでいきます。
187	ありふれた文言であり訴力に欠ける。 若者でなく女性に関して言うならば、就労や起業を中心とした施策は多かった。もっと幅広い年代層の施策も組み入れてほしい。 人生100年時代、就労、伝統文化の継承、地域及び社会貢献、市民活動など、生きがいを感じながら社会参画や活躍できるような仕組みがほしい。特に高齢女性には教育機会の少なかったデジタルで対応できるようになる研修機会が必要。コロナ禍で活動が止まっている現状がある。	B	未来創造・若者課が旗振り役となり、若者や女性が活躍できるまちづくりに向けて、市役所が一丸となって取り組んでいきます。また、ご意見にあるように幅広い世代の女性の意見も取り入れるよう検討を進めていきます。また、令和3年度から高齢者などがデジタル化への不安を解消できるように、スマートフォンの利用方法などに関する講習や相談を開始しました。
188	他の目標では〇〇人だが、SDGsパートナー登録者数だけ〇〇者となっている。	D	SDGs パートナーは企業のほか団体等を含むため、「〇〇者」としていません。
189	データ連携取扱サービスとはなんですか？	D	データ連携基盤とは、さまざまなデータを連携させ、先端的サービスを提供する際、必要なデータを共有できるようにするものです。 データ連携取扱サービスは、データ連携基盤で取り扱う異なる分野間のデータの種類について記載しています。

4 提出意見と関係なく変更した点

提出された意見のほか、市議会や総合計画審議会委員からの意見により計画全体を修正しました。